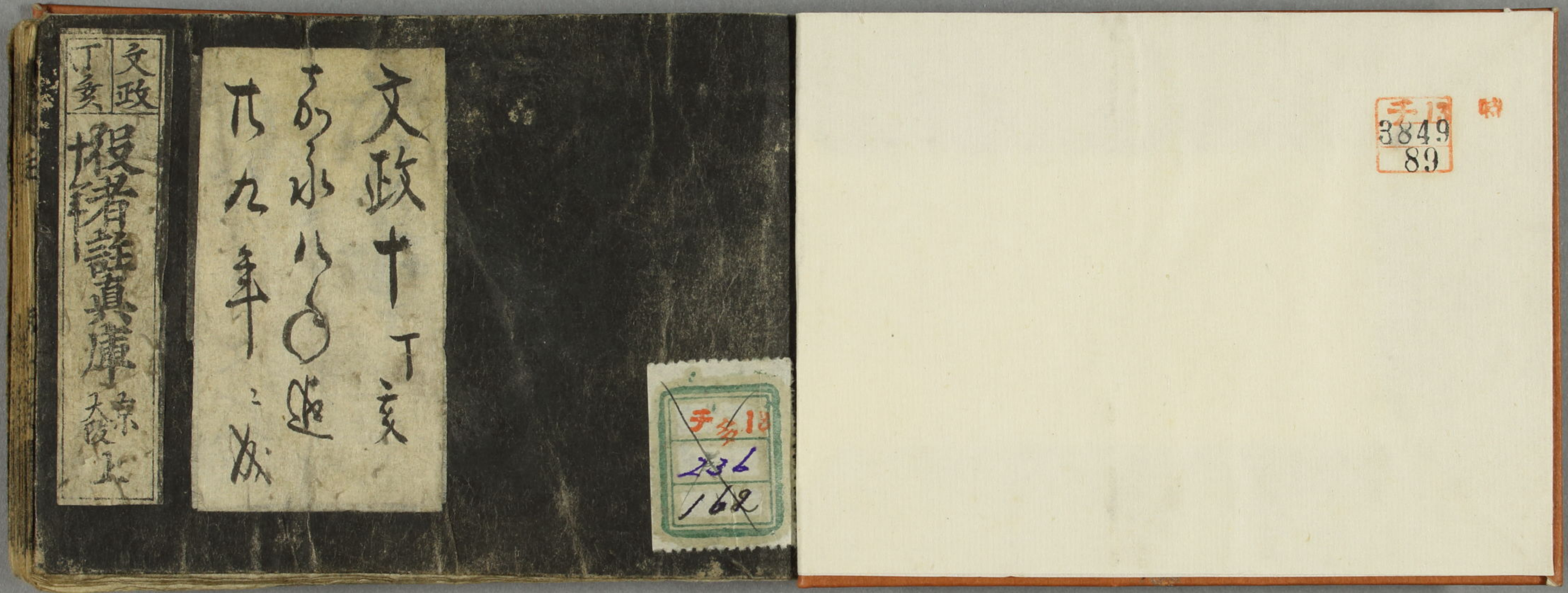
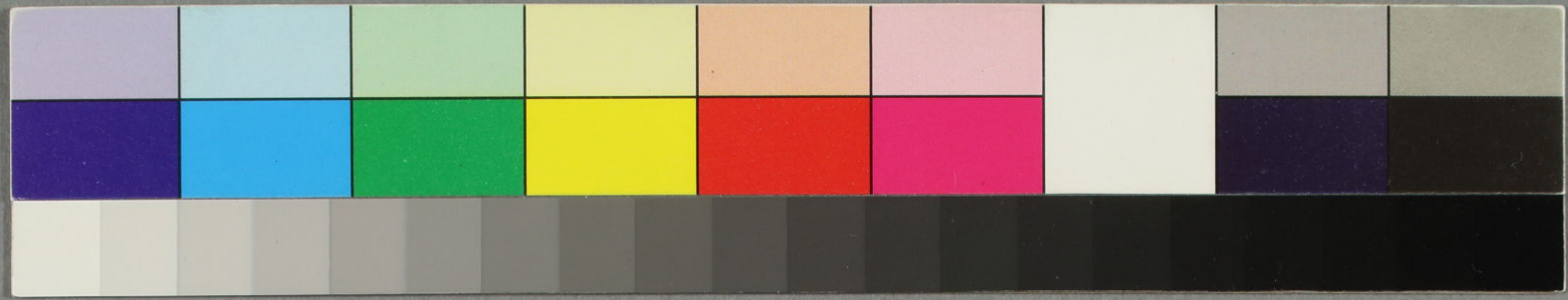


役者評判記

手13  
3849  
89





文政  
 丁亥  
 授者註真庫  
 天段上

文政十丁亥  
 丁亥  
 九月

~~手多18  
 236  
 162~~

手多18  
 3849  
 89



13  
子  
巻

819

興

役者註真庫

都波長月詠

鉄湯の控財祇園宮川の

花掃東在面不請たみ洛中

白里の空の雲中流がゆりふ

嘆まひひのひのくまのや

や物も後みくに常願本

徒とお連て疾行く程ある

山をたけぬ内み場も核を

服従いお山をたけぬの

註

第一巻

新見世に安んずるは  
夜更に安んずるは  
夜更に安んずるは  
夜更に安んずるは  
夜更に安んずるは  
夜更に安んずるは  
夜更に安んずるは  
夜更に安んずるは  
夜更に安んずるは  
夜更に安んずるは

永大坂大庄居惣役者目録

市川條

小川庄居

名代

早雲長右衛門  
龜谷兼之助

同

南側庄居

名代

布衣松本三郎  
都万右衛門

大坂外庄居

南側庄居

名代

大坂外庄居  
中村以右衛門

同

新庄庄居

名代

半野左衛門  
山嵐橋三郎

○凡三一切惣役者目録  
△市川條庄居并ニ庄の地目ありしは

▲惣巻頭

市川國盛

水川

上上吉

上上吉

上上吉

浅尾頼重

浅尾

▲五役之部

立役巻頭

山嵐橋三郎

山嵐橋

有火の役ありしは

上上吉 中村吉就

市出せハハシヘモカシ 早野

上上吉 小川吉太郎

ぬれふふうけいふいふいふい 吉田

上上吉 中村秋七

い川いふいふいふいふいふい 大野

上上吉 中村十郎

お名茶をうりて何故も 吉岡

上上吉 市川助十郎

糸もあれと仕内の重が 竹葉

上上 市川市茂

近比々大いんあり出し 矢野

上上 嵐三又郎

あふ付へいふいふいふいふい 柳井

上上 大野紫友

仕うち小いふいふいふいふい 原

上上 中村五郎

ちんちんいふいふいふいふい 加藤

上上 市川虎彦

ふいふの沖修りいふいふい 杉野

上上 市川彩世

あふいふいふいふいふい 小

上上 中村佑十郎

あふいふいふいふいふい 角

上上 浅尾樂十郎

あふいふいふいふいふい 富貴

上上 中村秋之助

あふいふいふいふいふい 角

上上 浅尾豊又郎

あふいふいふいふいふい 日

上上 浅尾八百蔵

あふいふいふいふいふい 角

上上 市川枝茂

あふいふいふいふいふい 小

上上 市川林之助

あふいふいふいふいふい 日

上上 中村三代彦

あふいふいふいふいふい 角

上上 嵐徳盛

あふいふいふいふいふい 日

上上 中山来龍

あふいふいふいふいふい 日

上上 嵐忠丸

あふいふいふいふいふい 日

上	市川龜壽日	上	中山貞壽日
上	市川經壽日	上	嵐延壽日
上	坂東國壽日	上	嵐有壽日
上	淡尾竹壽日	上	嵐久壽日
上	尾上勳壽日	上	坂東兵壽日
上	淡尾重壽日	上	淡村十壽日
上	小川澄壽日	上	嵐福壽日
上	中村登助日	上	山下龜壽日
上	中村耕壽日	上	中村春壽日
上	坂東伊之助日	上	淡尾勝壽日
上	淡村助壽日	上	中山重日
上	中村友壽日	上	淡村久壽日
上	市川巖壽日	上	中村重壽日
上	中山文七	上	中村重壽日

卷袖  
 功上吉 老母後はよのあひままが女坊  
 嵐の仕うららとあはれはと天知  
 実悪敵没之郡  
 実悪よりけりてはひらあはれ字の  
 市川龜十壽日  
 淡尾國又壽  
 嵐舎丸  
 中村元朝  
 坂東國又壽  
 中村東茂  
 市川市壽

至至上吉 坂東壽者日  
 至至上吉 實悪敵没之郡  
 至上吉 市川龜十壽日  
 至上吉 淡尾國又壽  
 至上吉 嵐舎丸  
 至上吉 中村元朝  
 至上吉 坂東國又壽  
 至上吉 中村東茂  
 至上 市川市壽

舎丸くともあはれはひらあはれ字の  
 中村元朝  
 坂東國又壽  
 中村東茂  
 市川市壽

仕内ハ大子小見申るあやう強

上上

改東七又命 あま

河原藤十命 △

五後よらあふれていふい 不破

上上

中村村右命 触

のそつとくろふとへぬ 壱岐

上上

嵐東義日

上上

嵐冠多清日

上上

市川伴義 上 市川其布 上

上上

中村澄義日 上 中村志六日

上上

相持松兼日 上 嵐橋九命日

上上

中村修兼日 上 改東志高日

上上

淡尾園平日 上 市川園子日

上上

淡尾山十命日 上 淡尾志兼日

上上吉

淡尾奥山 触

上上吉

大谷友兼 触

実西のあは味いふまきと業師

▲道外志兼取之部

上上吉

淡村長四命 触

上上

小川又九命 △

のりとも彼もへいひの侍

上上

正改東志兼 上 大谷九命 上

▲若女取之部

上上吉

中村秋六 触

御あ人も上の方で世のうらよ

上上吉

嵐富三命 触

上上吉

嵐かのふ日

仕内いあひものあるおり

上上吉

嵐博光 触

女形でも勢ひのよん 一が

上上吉

中村修兼 触

上上吉

中村以 触

上上中

嵐松之助 編

お三人お沖出雲の多良かきりて八

市川かぬい 小ざ

中村おの江 小ざ

中村まのり 角

いづきも沖切者か見え

上上

嵐三おあつ 日

お二人ともお沖出雲の多良かきりて八

中村三おあつ 日

後川友之助 編

嵐小ひか 日

沢村三馬 日

中村松三 編

中村鶴之助 日

沢村雛衣 日

中村秋柳 日

上上

少川弥を助 日

若女政  
上上吉  
巻油

みぢく 花名うき赤い藤

澤村團吉 編

中村松江 日

あまふんていそめ女政おあつあ

▲角發娘お子没之郎

嵐右三 編

市川鯉三 編

嵐芳三 編

中山由男 日

嵐巻之助 日

中村三 編

嵐橋治 編

上上

上上

注

宗六



上上

小川宗清部 有六  
淡尾羽流部 有六  
淡尾史文部 有六  
淡尾孝幸部 有六

上上

市川扇流部 有六  
中村頼之助部 有六  
中山源流部 有六  
嵐金助部 有六

中村約之部 有六  
大谷元流部 有六

中村福三部 有六  
嵐依之助部 有六

嵐瑞春部 有六  
嵐依之助部 有六

沢村龜吉部 有六  
坂東龜吉部 有六

市川外治部 有六  
坂東宗次部 有六

市川助三郎部 有六  
坂東宗次部 有六

淡尾房部 有六  
坂東宗次部 有六

中村海部 有六  
嵐のそ部 有六

淡尾政吉部 有六  
坂東源吉部 有六

淡尾源之助部 有六  
中村泰信部 有六

嵐楊花部 有六  
坂川目清部 有六

大谷灯部 有六  
嵐揚三郎部 有六

嵐揚部 有六  
坂東園部 有六

中村松助部 有六  
嵐三吉部 有六

嵐春吉部 有六  
嵐秀松部 有六

嵐市次郎部 有六  
沢村喜松部 有六

中村健助部 有六  
中村谷之助部 有六

中村金助部 有六  
中村約吉部 有六

中村金助部 有六  
中村金助部 有六

▲頭取之部

淡尾史文部 有六

相の谷権十郎部 有六

中山意又部 有六

坂東園部 有六

▲追加之部

中山新九郎部 有六

諸國沖修好八郎の娘ハ幸同

切上書 中山喜樂部 有六

注 京二

沖老幸ゆらと大その積乃

▲稀人別産之部

上上吉

関三十席 角座

見よふくはこれいづれの坊名

上上吉

淡尾友亮 日座

くまめりごとくはくと味の者

上上吉

濃川路之助 日座

吾妻の上方へまぐと旅の者

上上

関三老席 日座

初老より評判のよ小派

上上

関秋助 日座

む二人上方の初ぶるか人散逸

勢巻性

無類

中村秋彦 角座

沖再助の露屋(多)輝々堂

離子方之部

山側、庄屋、角座

三法 中村幸吉

三法 梓若正六 日 松相定七

三法 小川芳三席 日 花相万次郎

三法 中村彰之席 日 中村徳次郎

三法 中村幸七 日 田中暁之席

日 竹山富三席 日 田中火吉

日 中村宇七 日 田中文治

日 源出門十席 日 中村友平席

日 市川万次席 日 岩崎久吉

日 源中安吉 日 梓若正三席

日 豊島仙吉 日 小川吉三席

日 富士回教院 日 小川定吉

日 田中傳又席 日 松相伊佐

日 小川竹三席 日 小川徳助

日 文平清八 日 梓若正七

日 田中宇三席 日 笹井伊三席

日 山本中三席 日 竹幸三席

日 三法 梓若正吉 日 竹幸叶吉

三弦 中村金太郎	一清多 竹之助路突
一四 梓若仔三郎	一三條 金沢元吉
一四 坂東次郎	一四 金沢元吉
一長三 竹山弥三郎	一四 持江虎造
一少三 清水重三郎	一上 市川豊吉
一長三 田中若花	一四 豊隆仔三郎
一三弦 花桐亦三郎	一幾見 嵐仔三郎
一四 花桐仔三郎	一守持 仙傳城三郎
	一四 山村友三郎

南例庄并新地庄

一三弦 田中豊吉	一三 小松守三郎
一長三 竹山豊三郎	一四 長谷川仙虎
一四 藤中千吉	一四 小川豊三郎
一四 藤出長三郎	一四 笹井安三郎
一四 藤出重吉	一三弦 坂平正治郎
一四 笹井松三郎	一吉夫 文吉路中吉夫
一四 田中後三郎	一四 吉吉路東吉夫
一三弦 笹井太三郎	一三弦 原中吉夫

一四 岡安定三郎	一四 春安吉三郎
一四 中村森三郎	一四 嵐仔三郎
一四 大野寅三郎	一幾見 中川兵助
一四 嵐間十郎	一清多 竹本金吉夫
一四 笹井亦三郎	一四 竹本秋國夫
一四 中村若三郎	一四 竹本漢吉夫
一子三 小川森三郎	一三條 龜法笑三郎
一少三 織田万吉	一四 露法久吉
一四 和田重三郎	一三條 山村安三郎

▲他庄作者之部

水例庄並角之庄

金澤 豊吉路  
 近 豊多補  
 約 賞助  
 金沢十春助  
 金沢金助  
 淡松歌國  
 金沢報助

奈河内馬助  
金澤龍助  
金澤芝助  
金澤龍王

南例産美彰地産

近松長捕  
近本寺造  
近松政助  
奈河助助  
全法接助  
奈河玉助  
全法松助  
奈河繁造  
澤嵐納老

多福美早成樂

▲附録之部

上上 三井松又席  
上上 市川口之助  
上上 坂本重太郎  
上上 相澤後方  
上上 山崎松之助  
上上 橋山正三

○らんとおあつせや上上

文政の年戊辰月廿日 狂言作者

釋 寂圓 俗名豊晴助

寺 行年四十五

園内上方にて後代若の管領奈河氏  
心々外此年必長く御病余付され  
ゆゑ字の改め方書は後方なりこれ  
終つての春是處屋のたゞと云ひ西方の  
巻巻新巻と作りぬ願ひなりと云ふ  
傳定史存生中必○歌討多筆秘冊と

略して○朝顔○熊坂○波登○浦和  
 多務○小倉色紙そ外敷多たありの  
 投とす所並れずこの今に他若松庵の  
 砌あられも井のいこと致し思はず  
 の所方勿論所一統は所田向く程と  
 希とすべし

○はじめて所あやせりとす

文政九年戊子十月十日 俗名

扇月菴湖陸居士 嵐小六

行年四十四

寺ハ

中寺町 藥王寺

此書中にも見ゆるが分りてりゆひるが  
 湖鹿史高叙分世に條有別是花か  
 也りめて修海物語一証年か勤のいせ  
 の落は段段揚史との実合固ひま  
 付に是元と休けあるとははけは所の本  
 余んが多とらひしむけりあつるの入る  
 是たのあつるは是元の前日もとる間は

多のしりもあつるや一統はしんとす  
 とこの後事と女勢の勢とて分り  
 切標系の中は前後と云ふのは書  
 の出所はしむは別とせむははは  
 りに統一統一統一統一統一  
 かなしの後事と一統中意か銀金  
 かなしも前末とあつるは同中肯は  
 追本り中と一の所醫者標はなす  
 刻もあつるはとあつるはあつるは  
 かなしは統一の事と一統はなす  
 ねと統一の事と一統はなす  
 村令統一の事と一統はなす  
 彼を財前統一の事と一統はなす  
 られが統一の事と一統はなす  
 らに統一の事と一統はなす  
 の事と一統はなす  
 なる所統一の事と一統はなす  
 此の事と一統はなす





ありがらむのことはあれど  
いばとやう  
南無ともかやも

いられどもん

【下】色く厚の書画もあつて出ま  
とこの湖鹿史あつては世のあひ  
出さなく物もあつたやうな  
一羽の別とあれはあつたやうな  
妻御もあつたやうな  
かれは世のあつたやうな  
別と仕り

極上吉 嵐小六

俗名

いれも換方の中であつた  
それの中であつた  
方々作合所田向の沖物目と  
数々の篇沖向の存と  
移りしと

立身傳 寄撰釋と  
古今存ある座の見立



役者 立身傳  
見讃老人

奉希止外七  
いりまは

家系を人の講師ありて  
諸君のいふ事ありて  
多量なるものありて  
いふ事ありて  
いふ事ありて  
いふ事ありて  
いふ事ありて





沖田物の入極の達は百々弁之の事ありて中  
歩よりれは其後定白の事と任然  
勢の事と心定事勢後思こと後一  
女取女取通つと致しめて弁が事と  
先祖極其女う意事の極極の事と  
いふ極の流の事と弁が事と七後  
い事と心定事勢後思こと後一  
勢の事と心定事勢後思こと後一  
女取女取通つと致しめて弁が事と  
先祖極其女う意事の極極の事と  
いふ極の流の事と弁が事と七後

結しことのみを弁法し其れ事と  
の事と心定事勢後思こと後一  
勢の事と心定事勢後思こと後一  
女取女取通つと致しめて弁が事と  
先祖極其女う意事の極極の事と  
いふ極の流の事と弁が事と七後  
い事と心定事勢後思こと後一  
勢の事と心定事勢後思こと後一  
女取女取通つと致しめて弁が事と  
先祖極其女う意事の極極の事と  
いふ極の流の事と弁が事と七後

種多岐の如くありあじろくそ時...  
七段并二五の場三の子格也今之事  
少かき故に九人あまの厚肉初果の  
宗親の如く物目見略の近はまはれ  
お深の七段の如くそ外五の子格と見え  
物目取違ひ行はれ難が子格はまがめ  
よれ物取違ひ行はれ難が子格はまがめ  
お深の七段の如くそ外五の子格と見え  
多き子かかぬ故に行はれ難が子格はまがめ  
はまがめの如くはまがめの子格と見え

お深の七段の如くそ外五の子格と見え  
多き子かかぬ故に行はれ難が子格はまがめ  
はまがめの如くはまがめの子格と見え  
お深の七段の如くそ外五の子格と見え  
多き子かかぬ故に行はれ難が子格はまがめ  
はまがめの如くはまがめの子格と見え  
お深の七段の如くそ外五の子格と見え  
多き子かかぬ故に行はれ難が子格はまがめ  
はまがめの如くはまがめの子格と見え

作者 八文舎自笑  
梅枝軒泊篤

文政十年  
十月五日



亦念成の春中はた天位は然と名古松山三  
 段頃の天園をうまふことおとよめはゆや  
 つかく事あると云外に若くはそと系おもふ  
分りす系二條をぬく様もそと女は後  
 困るふよりはして勝てぬことぬはあのおし  
 女々や系二條をもつ世はゆかんとあ  
 け部をゆめ後ふ殿もあはれゆめを勝ての  
 事よひ解物製の程か合系三條を  
 幼解末としのあはれゆめゆめゆめを  
 女々もゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 らうゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 のゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

ありありと系二條ゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 才業果の法合まのゆめゆめゆめゆめゆめ  
 たる実果の後かゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 拔きゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 木下やあゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 とあゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 ぼるゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 初てゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 ちゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ  
 香もゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ



市の例も勤め入給ふの儀後段は於後故  
 事春の心持見付百三十一年固三番の御  
 角北に於ける儀後段は於後段の御  
 附分と申すも此の御儀は於後段の御  
 附分と申すも此の御儀は於後段の御  
 附分と申すも此の御儀は於後段の御  
 附分と申すも此の御儀は於後段の御  
 附分と申すも此の御儀は於後段の御  
 附分と申すも此の御儀は於後段の御  
 附分と申すも此の御儀は於後段の御  
 附分と申すも此の御儀は於後段の御  
 附分と申すも此の御儀は於後段の御

外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段  
 外に此の市は於後段の御儀は於後段

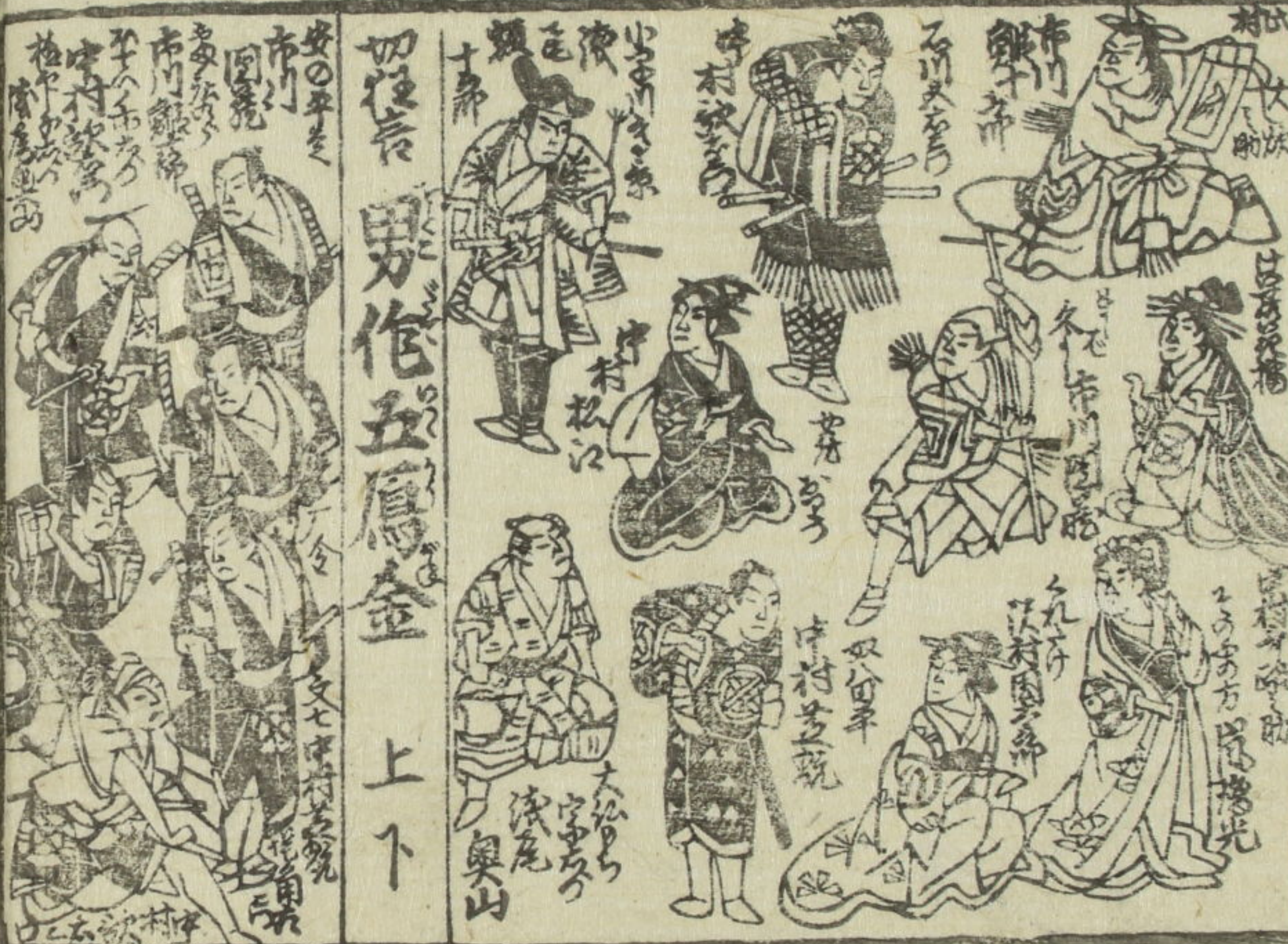








成十一月三日  
**金門五山祠**  
 各平雲長去矣  
 代意谷安之真



四柱言 男作五鳳金 上下



伊勢物語  
 作五鳳金  
 都万夫



切替言 上中下









長上出教人思慮歴々後の...  
[一] [二] [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [一百]



山廻り仕立のねがも統べ候（一）いふ事  
下各切替書案の御勘設候事（二）御勘設事（三）  
おてあす（四）おてあす（五）おてあす（六）  
おてあす（七）おてあす（八）おてあす（九）  
おてあす（十）おてあす（十一）おてあす（十二）  
おてあす（十三）おてあす（十四）おてあす（十五）  
おてあす（十六）おてあす（十七）おてあす（十八）  
おてあす（十九）おてあす（二十）おてあす（二十一）  
おてあす（二十二）おてあす（二十三）おてあす（二十四）  
おてあす（二十五）おてあす（二十六）おてあす（二十七）  
おてあす（二十八）おてあす（二十九）おてあす（三十）  
おてあす（三十一）おてあす（三十二）おてあす（三十三）  
おてあす（三十四）おてあす（三十五）おてあす（三十六）  
おてあす（三十七）おてあす（三十八）おてあす（三十九）  
おてあす（四十）おてあす（四十一）おてあす（四十二）  
おてあす（四十三）おてあす（四十四）おてあす（四十五）  
おてあす（四十六）おてあす（四十七）おてあす（四十八）  
おてあす（四十九）おてあす（五十）おてあす（五十一）  
おてあす（五十二）おてあす（五十三）おてあす（五十四）  
おてあす（五十五）おてあす（五十六）おてあす（五十七）  
おてあす（五十八）おてあす（五十九）おてあす（六十）  
おてあす（六十一）おてあす（六十二）おてあす（六十三）  
おてあす（六十四）おてあす（六十五）おてあす（六十六）  
おてあす（六十七）おてあす（六十八）おてあす（六十九）  
おてあす（七十）おてあす（七十一）おてあす（七十二）  
おてあす（七十三）おてあす（七十四）おてあす（七十五）  
おてあす（七十六）おてあす（七十七）おてあす（七十八）  
おてあす（七十九）おてあす（八十）おてあす（八十一）  
おてあす（八十二）おてあす（八十三）おてあす（八十四）  
おてあす（八十五）おてあす（八十六）おてあす（八十七）  
おてあす（八十八）おてあす（八十九）おてあす（九十）  
おてあす（九十一）おてあす（九十二）おてあす（九十三）  
おてあす（九十四）おてあす（九十五）おてあす（九十六）  
おてあす（九十七）おてあす（九十八）おてあす（九十九）  
おてあす（一百）





八海は海神を奉じて候りて日よあつたりしに  
まはつ方増ふなりとて書かぬ[三]三級  
内七は海神を奉じて候りて日よあつたりしに  
まはつ[四]海神を奉じて候りて日よあつたりしに  
まはつ[五]海神を奉じて候りて日よあつたりしに  
まはつ[六]海神を奉じて候りて日よあつたりしに  
まはつ[七]海神を奉じて候りて日よあつたりしに  
まはつ[八]海神を奉じて候りて日よあつたりしに  
まはつ[九]海神を奉じて候りて日よあつたりしに  
まはつ[十]海神を奉じて候りて日よあつたりしに

中六 何れもみよとて書かぬ[一]何れもみよとて書かぬ  
とて書かぬ[二]何れもみよとて書かぬ  
中六 何れもみよとて書かぬ[三]何れもみよとて書かぬ  
とて書かぬ[四]何れもみよとて書かぬ  
中六 何れもみよとて書かぬ[五]何れもみよとて書かぬ  
とて書かぬ[六]何れもみよとて書かぬ  
中六 何れもみよとて書かぬ[七]何れもみよとて書かぬ  
とて書かぬ[八]何れもみよとて書かぬ  
中六 何れもみよとて書かぬ[九]何れもみよとて書かぬ  
とて書かぬ[十]何れもみよとて書かぬ

経

三

横たはり梅葉の影をよそひて  
の春はるき梅葉の影をよそひて  
春はるき梅葉の影をよそひて  
春はるき梅葉の影をよそひて  
春はるき梅葉の影をよそひて  
春はるき梅葉の影をよそひて  
春はるき梅葉の影をよそひて  
春はるき梅葉の影をよそひて  
春はるき梅葉の影をよそひて  
春はるき梅葉の影をよそひて

とせしむるに  
いふに  
梅葉の影をよそひて  
梅葉の影をよそひて  
梅葉の影をよそひて  
梅葉の影をよそひて  
梅葉の影をよそひて  
梅葉の影をよそひて  
梅葉の影をよそひて  
梅葉の影をよそひて  
梅葉の影をよそひて  
梅葉の影をよそひて

正

方物を揚る者女に取ればいふ所が借性知  
 秋のこぼれに先起りたる信宿事やと  
 ちの切の落るる天後がたごとくやや  
 ち<sup>二</sup>て<sup>一</sup> **三**彼が漢のよなれはてやふか  
 かな<sup>一</sup> **四**切物移物なき漢帝後 **四** **五** **六** **七**  
 ぬきをたかきや気かぬきとらや **七** **八**  
 物なると **四** **五** **六** **七** **八** **九** **一〇**  
 物のちを絶たて **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 ち **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 白紙 **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 探下 **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 答 **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 ち **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
**一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**

とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**  
 とす **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇** **一〇**

毛糸の園にてとらふものありて多しを  
 中とて<sup>〔著〕</sup>二級板の播布を物販を  
 のる者よる毛糸の産地を極く多し  
 産地は各々を<sup>〔七〕</sup>北の原を多し所産  
 ありて水産のありて<sup>〔八〕</sup>北の原の<sup>〔九〕</sup>  
 是年二河原の産地を<sup>〔一〇〕</sup>毛糸の<sup>〔一一〕</sup>  
 水は北原の産地を<sup>〔一二〕</sup>北の原の<sup>〔一三〕</sup>  
 物販を<sup>〔一四〕</sup>北の原の<sup>〔一五〕</sup>北の原の  
 北の原の産地を<sup>〔一六〕</sup>北の原の<sup>〔一七〕</sup>  
<sup>〔一八〕</sup>北の原の産地を<sup>〔一九〕</sup>北の原の<sup>〔二〇〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔二一〕</sup>北の原の<sup>〔二二〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔二三〕</sup>北の原の<sup>〔二四〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔二五〕</sup>北の原の<sup>〔二六〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔二七〕</sup>北の原の<sup>〔二八〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔二九〕</sup>北の原の<sup>〔三〇〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔三一〕</sup>北の原の<sup>〔三二〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔三三〕</sup>北の原の<sup>〔三四〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔三五〕</sup>北の原の<sup>〔三六〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔三七〕</sup>北の原の<sup>〔三八〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔三九〕</sup>北の原の<sup>〔四〇〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔四一〕</sup>北の原の<sup>〔四二〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔四三〕</sup>北の原の<sup>〔四四〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔四五〕</sup>北の原の<sup>〔四六〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔四七〕</sup>北の原の<sup>〔四八〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔四九〕</sup>北の原の<sup>〔五〇〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔五一〕</sup>北の原の<sup>〔五二〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔五三〕</sup>北の原の<sup>〔五四〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔五五〕</sup>北の原の<sup>〔五六〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔五七〕</sup>北の原の<sup>〔五八〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔五九〕</sup>北の原の<sup>〔六〇〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔六一〕</sup>北の原の<sup>〔六二〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔六三〕</sup>北の原の<sup>〔六四〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔六五〕</sup>北の原の<sup>〔六六〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔六七〕</sup>北の原の<sup>〔六八〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔六九〕</sup>北の原の<sup>〔七〇〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔七一〕</sup>北の原の<sup>〔七二〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔七三〕</sup>北の原の<sup>〔七四〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔七五〕</sup>北の原の<sup>〔七六〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔七七〕</sup>北の原の<sup>〔七八〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔七九〕</sup>北の原の<sup>〔八〇〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔八一〕</sup>北の原の<sup>〔八二〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔八三〕</sup>北の原の<sup>〔八四〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔八五〕</sup>北の原の<sup>〔八六〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔八七〕</sup>北の原の<sup>〔八八〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔八九〕</sup>北の原の<sup>〔九〇〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔九一〕</sup>北の原の<sup>〔九二〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔九三〕</sup>北の原の<sup>〔九四〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔九五〕</sup>北の原の<sup>〔九六〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔九七〕</sup>北の原の<sup>〔九八〕</sup>  
 北の原の産地を<sup>〔九九〕</sup>北の原の<sup>〔一〇〇〕</sup>

北原の産地を<sup>〔一〇一〕</sup>北の原の<sup>〔一〇二〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一〇三〕</sup>北の原の<sup>〔一〇四〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一〇五〕</sup>北の原の<sup>〔一〇六〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一〇七〕</sup>北の原の<sup>〔一〇八〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一〇九〕</sup>北の原の<sup>〔一一〇〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一一一〕</sup>北の原の<sup>〔一一二〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一一三〕</sup>北の原の<sup>〔一一四〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一一五〕</sup>北の原の<sup>〔一一六〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一一七〕</sup>北の原の<sup>〔一一八〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一一九〕</sup>北の原の<sup>〔一二〇〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一二一〕</sup>北の原の<sup>〔一二二〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一二三〕</sup>北の原の<sup>〔一二四〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一二五〕</sup>北の原の<sup>〔一二六〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一二七〕</sup>北の原の<sup>〔一二八〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一二九〕</sup>北の原の<sup>〔一三〇〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一三一〕</sup>北の原の<sup>〔一三二〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一三三〕</sup>北の原の<sup>〔一三四〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一三五〕</sup>北の原の<sup>〔一三六〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一三七〕</sup>北の原の<sup>〔一三八〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一三九〕</sup>北の原の<sup>〔一四〇〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一四一〕</sup>北の原の<sup>〔一四二〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一四三〕</sup>北の原の<sup>〔一四四〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一四五〕</sup>北の原の<sup>〔一四六〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一四七〕</sup>北の原の<sup>〔一四八〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一四九〕</sup>北の原の<sup>〔一五〇〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一五一〕</sup>北の原の<sup>〔一五二〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一五三〕</sup>北の原の<sup>〔一五四〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一五五〕</sup>北の原の<sup>〔一五六〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一五七〕</sup>北の原の<sup>〔一五八〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一五九〕</sup>北の原の<sup>〔一六〇〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一六一〕</sup>北の原の<sup>〔一六二〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一六三〕</sup>北の原の<sup>〔一六四〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一六五〕</sup>北の原の<sup>〔一六六〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一六七〕</sup>北の原の<sup>〔一六八〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一六九〕</sup>北の原の<sup>〔一七〇〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一七一〕</sup>北の原の<sup>〔一七二〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一七三〕</sup>北の原の<sup>〔一七四〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一七五〕</sup>北の原の<sup>〔一七六〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一七七〕</sup>北の原の<sup>〔一七八〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一七九〕</sup>北の原の<sup>〔一八〇〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一八一〕</sup>北の原の<sup>〔一八二〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一八三〕</sup>北の原の<sup>〔一八四〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一八五〕</sup>北の原の<sup>〔一八六〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一八七〕</sup>北の原の<sup>〔一八八〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一八九〕</sup>北の原の<sup>〔一九〇〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一九一〕</sup>北の原の<sup>〔一九二〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一九三〕</sup>北の原の<sup>〔一九四〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一九五〕</sup>北の原の<sup>〔一九六〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一九七〕</sup>北の原の<sup>〔一九八〕</sup>  
 北原の産地を<sup>〔一九九〕</sup>北の原の<sup>〔二〇〇〕</sup>

上上吉 ④ 山川を帝神

皇成の春を西を東に皇祖を祀るは皇祖  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは

上上吉 ⑤ 中村秋七 船

皇成の春を西を東に皇祖を祀るは皇祖  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは

皇成の春を西を東に皇祖を祀るは皇祖  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは  
皇極を祀るは皇極を祀るは皇極を祀るは

上上吉 ⑥ 中村十翁

醫 之後の成りたるは、博中三帝と云ふは、  
新法を傳へしと云ふ中三帝、及て唐を征して  
書院の成りたるは、文成天皇又秋田の征す  
行是物也、  
長と云ふは、中三帝と云ふは、博中三帝と云  
れり、  
お名を記すは、  
切事ありは、  
上上書 回 市川助十郎 出

市川氏争法ありて、  
かみは、  
さかき、  
と云ふは、  
まこと、

秋中、  
人、  
兼、  
さ、  
三、  
出、  
是、  
上上 回 市川市助 出

市川市助、  
中、  
三、  
出、  
是、  
上上 回 市川市助 出

たすきしふふのむかへたふりよき後して  
凡そそのまゝに[図]の形に於ては[図]の  
ありしと云はれ[図]の形に於ては[図]の  
三平段の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
世に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の

上上 桐 山嵐 三又の形 柳

[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の

楓の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の  
[図]の形に於ては[図]の形に於ては[図]の



に任ありやとの [宮] に居りぬ [宮] にも  
機許は追おはる [下] 七 [宮] にも  
行出ぬと [宮] にも

### 上上 ⊕ 大層紫友

四六

[宮] 春法は [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
く [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
仰光 [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
か [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
事 [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
付 [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
お [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
又 [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
よ [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
ふ [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
ま [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には

どの [宮] にも

### 上上 ⊗ 中村まき雨 能

[宮] 春法は [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
く [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
仰光 [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
か [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
事 [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
付 [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
お [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
又 [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
よ [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
ふ [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には  
ま [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には [宮] には



後に出物ありては出物

上上 念 山見三郎 △

賢妻の国の種付違抄に佛縁多岐後長統  
の事ありて是れ下上を後かき事と云ふ  
事と云ふ所出物に事あり

上上 回 市川新三郎 △

賢妻の田原義兵衛出物と云ふ事あり  
又尾三郎の日記に事ありて是れ下上を  
秋葉の津守と云ふ事ありて是れ下上を  
徳助と云ふ事ありて是れ下上を  
中見の事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を

上上 中村松十郎 △

賢妻の田原義兵衛出物と云ふ事あり  
いふ事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を

上上 波尾樂十郎 △

賢妻の田原義兵衛出物と云ふ事あり  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を  
事ありて是れ下上を

てのさしつゝいせ出動のつゝいせ

上上



中村秋之助 熊

寛門より此如品出の区近は秋雨と改  
名改は梅の形とせし外[坊]地物等  
寛政七段の食の表の事あるを[図]と  
力あるは後々[事]内若くは[事]多  
別本軍時中[事]の[事]なり

上上



工 津尾豊常 熊

[図]津尾氏と分れ[事]なり  
并は河渡と[事]なり  
中近は[事]なり

上上

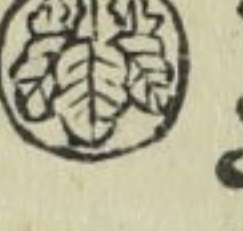


津尾八百流 △

[図]之は後松岡も寛政各三段  
是公刻の事なり[事]なり  
かか[事]なり

津若岸く[坊]又か[事]なり  
り[事]なり  
勤の事なり[事]なり

上上吉



中山文七 熊

[図]百段と分れ[事]なり  
より[事]なり  
[図]角の[事]なり  
二段[事]なり  
[事]なり  
幼平[事]なり  
又[事]なり  
[事]なり  
[事]なり  
[事]なり

注

京甲三



見せぬ前々からいせ殿とある事西山の  
とある所いれ物と云う評判と云う事  
殿と投のいれ物と云う事と云う事  
中二物切投の事と云う事と云う事  
と云う事と云う事と云う事と云う事  
より中二物の事と云う事と云う事  
遊園地と云う事と云う事と云う事  
の御事と云う事と云う事と云う事  
れと云う事と云う事と云う事と云う事  
近鬼北と云う事と云う事と云う事  
と云う事と云う事と云う事と云う事  
秋の事と云う事と云う事と云う事  
と云う事と云う事と云う事と云う事  
かき交す事と云う事と云う事と云う事  
かき交す事と云う事と云う事と云う事  
役車場と云う事と云う事と云う事

役者註真庫

江戸巻目録

巻目録

嘉肴の事と云う事と云う事と云う事  
味と云う事と云う事と云う事と云う事  
次と云う事と云う事と云う事と云う事  
下と云う事と云う事と云う事と云う事  
味の事と云う事と云う事と云う事と云う事  
の事と云う事と云う事と云う事と云う事  
例と云う事と云う事と云う事と云う事

河川の合流を流す陽の所は  
 陽陰陽湯と名付の所を要す  
 分り初後谷の巻の所は  
 まことの谷の巻は教の所は  
 東谷の巻の中谷の巻は  
 の任家陰根守七五陰根  
 具實に結核を新米の巻は  
 中谷集津の巻は中谷の巻は  
 れ巻の巻は巻の巻は巻は  
 丸巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

江戸三芝流巻巻者目録

巻所 中村巻二巻 巻

巻所 市村巻三巻 巻

本巻所 市村巻三巻 巻

○見多巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

惣巻巻巻

大極巻巻 坂東三巻巻 市村

巻の巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

三巻巻巻

極巻巻 市川巻二巻 市村

巻の本巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

上巻巻 坂東巻三巻 巻

巻の巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

上巻巻 三巻源之助 中村

巻の巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

上巻巻 中山巻三巻 中村

巻の巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

上巻巻 市川巻三巻 市村

巻の巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

上吉

用かまひしきむらひのそまへ

萩野三郎市村

上吉

市川友彦 日

市川内三郎 中

上吉

申村瑞五郎

雪ふかえあそつとあつらひしてま履

上吉

尾上松助 中

かきしんそふちあれおやこの達

上吉

市川三郎 日

紫もくふふむる鳥の大達のの

極上吉

尾上菊齋 日

一列の舟まじらふひのひの連中

▲寅魚 敬啟之 敬

上吉

嵐冠子 日

さきさきふさふさのさけのひをたふし

上吉

坂田三郎 日

あまのきんぎょのさきはまのまな

上吉

坂東三郎 日

二天作ふさけのそとあの上

上吉

大谷内三郎 中

はらあとのさきさきつあるさあめあ

上吉

成田三郎 市

きつろひのちをけりあめあ

上吉

中山文五郎 日

けつろひのちをけりあめあ

上吉

市川宗三郎 日

そのまはつふのちをけりあめあ

上吉

岩井三郎 中

あまのきんぎょのちをけりあめあ

上吉

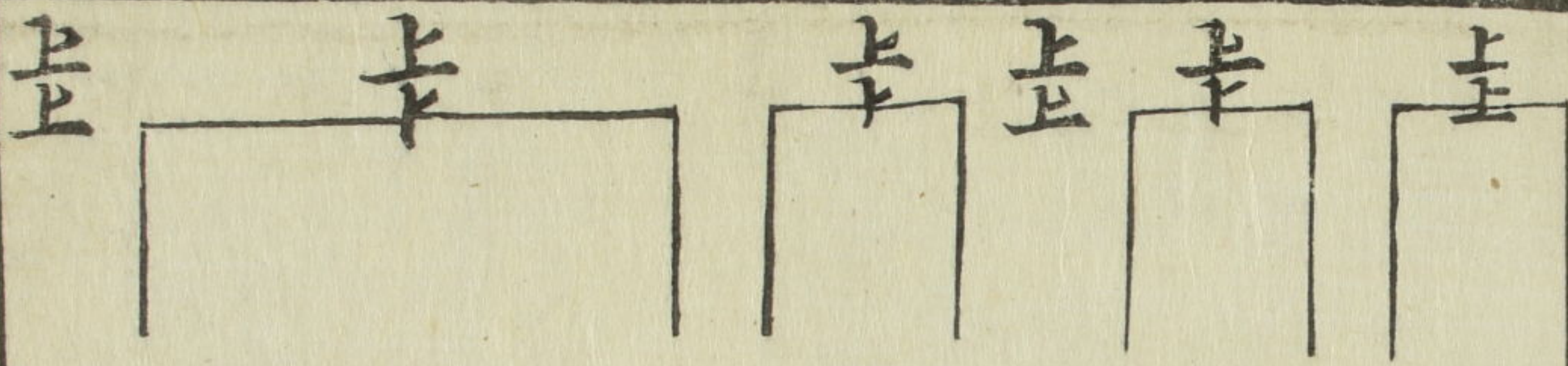
松本三郎 日

あまのきんぎょのちをけりあめあ

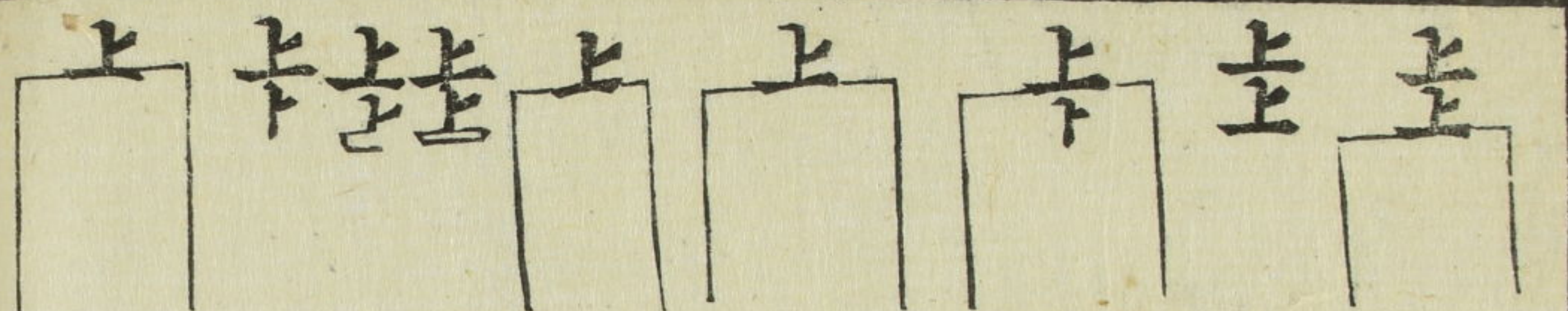
五

三





坂田中十郎  
 坂田五郎  
 津島口三郎  
 坂田五郎  
 市川門助  
 市川團次  
 中野勘助  
 市川團次  
 仙石兵衛  
 市川團次  
 市川團次  
 松本清盛  
 園三平  
 坂田新次  
 坂田新次  
 市川團次  
 松本清盛



市川為十郎  
 本場三郎  
 尾上梅藏  
 中村五郎  
 尾上梅藏  
 中村五郎  
 三井勝藏  
 中村五郎  
 岡野十郎  
 尾上梅藏  
 市川團次  
 中村五郎  
 松本清盛  
 尾上梅藏  
 松本清盛  
 市川團次  
 市川團次  
 市川團次

上

中村 中

上

中村 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

上

市川 中

江 五五九

上幸

中山三郎市

上幸

瀬川角太郎河

上幸

市川三之助市

上幸

岩井越之助中

上幸

坂本三郎市

坂本三郎の墓ありてその色を以て

上幸

岩井辰三郎市

上幸

市川三郎市

上幸

坂本三郎市

上幸

岩井辰三郎市

上幸

瀬川角太郎河

瀬川角太郎の墓ありてその色を以て

上幸

市川海老蔵市

上幸

坂本三郎市

上幸

三株大三郎中

上幸

市川三郎市

注

五五六

上

山岩并松平部中

中村彦子没

尾上喜右

岩井浪左

尾上喜右

市川今六

中村哥木

大谷番場

尾上喜右

市川勝次

沢村東彦

沢村金平

岩井浪左

市村彦子没

市川喜右

三井喜右

沢村彦子

上

卡

坂東徳兵衛  
坂東彦兵衛  
吾妻勇兵衛  
坂東松兵衛  
岩井其金

▲惣巻油

至極上吉

斤長仁左衛門 河

真極上吉

松本彦右衛門 中

重日本子たつて元りと其等より

▲古丈元之部

上上吉

中村勘三郎

上上吉

市村勘三郎

河名彦右衛門

▲題取之部

注

五五七

中村庄

中村海丸  
株屋喜三郎

市村庄

市妻市左門

在言佐者之邪

松井喜三

高松正三

高松正三

高松正三

高松正三

高松正三

高松正三

高松正三

高松正三

高松正三

高松正三

高松正三

高松正三

市村庄

市村庄

大権主吉



改東三深系

既而東西へ大和屋の祝方をててて外ヒイキ  
ままに今年に印記をて候存もあつひ  
を分てよるまはたつとよきとて平のそく

既而東西へ大和屋の祝方をてて外ヒイキ

ままに今年に印記をて候存もあつひ

を分てよるまはたつとよきとて平のそく

既而東西へ大和屋の祝方をてて外ヒイキ

ままに今年に印記をて候存もあつひ

を分てよるまはたつとよきとて平のそく

既而東西へ大和屋の祝方をてて外ヒイキ

ままに今年に印記をて候存もあつひ

を分てよるまはたつとよきとて平のそく

既而東西へ大和屋の祝方をてて外ヒイキ





まことつらうらやまをわが心とす  
の度のかごをよきまを母に譲つあ  
さしひをまらねいとも思ひがし  
あて **日吉モシ** びやうひさから秀佳  
でも **杜若** ともあがやうかまき **日吉**  
病氣を押しお母後には **日吉** 秀佳の大  
出来出願を母も持たせそ **日吉** の娘  
かた **三井** 宗子 **日吉** の三のたま **日吉**  
ころ **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
刀たりの **日吉** の **日吉** **日吉** 宗子の **日吉**  
谷 **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
ま **日吉** **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
花 **日吉** の **日吉** **日吉** 宗子の **日吉**  
花 **日吉** の **日吉** **日吉** 宗子の **日吉**  
る **日吉** **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**

免がまもくろいをゆて居升

極上吉 回 市川團十郎 市

**日吉** 成田屋の **日吉** 日 **日吉** 宗子の **日吉**  
よ **日吉** **日吉** **日吉** **日吉** 宗子の **日吉**  
真 **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
極 **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
ま **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
な **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
か **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
は **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
我 **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
娘 **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**  
ら **日吉** 宗子の **日吉** 宗子の **日吉**

注 江戸 社







合の時きつて大分はかたしつて合にあり  
と直後川とて大分は極大に流るゝは  
しつて合の流は極大に流るゝは  
も極大に流るゝは極大に流るゝは  
しつて合の流は極大に流るゝは  
合二年の流は極大に流るゝは  
はつて合の流は極大に流るゝは  
月毎に流るゝは極大に流るゝは  
後より流るゝは極大に流るゝは  
のり流るゝは極大に流るゝは  
わつて合の流は極大に流るゝは  
のり流るゝは極大に流るゝは  
らつて合の流は極大に流るゝは  
極大に流るゝは極大に流るゝは  
物とて合の流は極大に流るゝは

はつて合の流は極大に流るゝは  
わつて合の流は極大に流るゝは  
のり流るゝは極大に流るゝは  
らつて合の流は極大に流るゝは  
極大に流るゝは極大に流るゝは  
物とて合の流は極大に流るゝは  
はつて合の流は極大に流るゝは  
わつて合の流は極大に流るゝは  
のり流るゝは極大に流るゝは  
らつて合の流は極大に流るゝは  
極大に流るゝは極大に流るゝは  
物とて合の流は極大に流るゝは  
はつて合の流は極大に流るゝは  
わつて合の流は極大に流るゝは  
のり流るゝは極大に流るゝは  
らつて合の流は極大に流るゝは  
極大に流るゝは極大に流るゝは  
物とて合の流は極大に流るゝは

らるゝなり ○ ○ 天日坊倍孫治の  
くのもめ不敵者まを中ふらふと云々  
○ ○ ○ 天日坊倍孫治の  
好美ゆと孫孫吉郎と云ふなり ○ ○  
おらとて同じ事と云ふと云ふ人あり  
人相と云ふ事なかりぬ ○ ○ 天日坊我  
未生と云ふ事なり ○ ○ 思が別の場合にて  
たふらふ ○ ○ ○ 天日坊我  
と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
に如き事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
中ら下と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
の事とて云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
御末孫孫治と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
教訓の事なり ○ ○ ○ 天日坊我

権者事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
物とてこの事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
まむと云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
あむと云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
の事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
御の事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
権者の事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
おむと云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
口上と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
口上と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
口上と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
口上と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
口上と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
口上と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
口上と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
口上と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
口上と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我  
口上と云ふ事なり ○ ○ ○ 天日坊我

主 五 五

三言  
に横早天にせ表らこのはらた **〔三言〕** 直古  
風まはりし山のかへりてはた **〔三言〕** 直古  
表らひがむとて種々降る表のむよふた  
のひあふなるおもふて **〔三言〕** 直古  
善事よて改るる二并のほむす **〔三言〕** 直古  
ふくはひしちかたむのむす **〔三言〕** 直古  
改るの腰どどて成田谷を日中とのぼる  
まてのふらしん早ふたふた **〔三言〕** 直古  
親方 **〔改る〕** 直古の種々かたむ **〔三言〕** 直古  
いあく **〔三言〕** 直古のふれ **〔三言〕** 直古  
春は佳気春まきふた **〔三言〕** 直古  
**〔三言〕** 直古のまきふた **〔三言〕** 直古  
合ひうがむらふて **〔三言〕** 直古  
肉のこむ **〔三言〕** 直古  
まきの **〔三言〕** 直古  
三言直古

見及まむ **〔三言〕** 直古の十六 **〔三言〕** 直古  
ほ元上下の津わりの **〔三言〕** 直古  
の新 **〔三言〕** 直古  
ま **〔三言〕** 直古  
ま **〔三言〕** 直古  
**〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古  
 **〔三言〕** 直古

五十一  
五

東西くちまの海入りの...  
せぬまの當まより曲の...  
外たぬたくて...  
ままの...  
ヤ

上上言



坂東彦三郎

東ままより今まの...  
動あまより...  
春言...  
馬...  
業...  
判...  
ま...  
た...  
ま...  
判...  
味...

節を振...  
て...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...




後も[トキ]ナト申すからるは極だめりて  
[源]河津流を[櫻]林[東]の二部を流  
まじり[奥]方[河]の流のくさる[河]見  
だる身はをまらぬあうらうらと[申]せ  
たゆめを身はをまらぬあうらうらと[源]  
[河]津を[櫻]林[東]の二部を流の流の極  
系[トキ]思ひの外のあつらうらと  
[源]河津の流の流の流の流の流の流  
うはとをまらぬ[トキ]るふく使のま  
でいれらうらと[源]河津の流の流  
三まらの流の流の流の流の流の流  
後河津の流の流の流の流の流の流  
場を七と出来く[トキ]るふく使のま  
とるうらと[源]河津の流の流の流  
なまらぬ流の流の流の流の流の流

入と[源]河津の流の流の流の流の流  
あつらうらと[源]河津の流の流の流  
[源]河津の流の流の流の流の流の流  
これのふく[トキ]るふく使のま  
やまらぬ[トキ]るふく使のま  
一とく[源]河津の流の流の流の流  
[源]河津の流の流の流の流の流の流  
源を七と出来く[トキ]るふく使のま  
ゆり[源]河津の流の流の流の流の流  
あつらうらと[源]河津の流の流の流  
まじり[源]河津の流の流の流の流  
[トキ]るふく使のま[源]河津の流  
[源]河津の流の流の流の流の流の流  
[源]河津の流の流の流の流の流の流  
[源]河津の流の流の流の流の流の流  
[源]河津の流の流の流の流の流の流



夜最も三流の山主殿の事にて成りしに  
[送] [送] 給金と云ふ事にてり [送] 東西  
[送] 給金と云ふ事にてり [送] 東西  
[送] 給金と云ふ事にてり [送] 東西

上山音  中山富三郎

[送] 錦東主と云ふ并 [送] 今美り之  
居が事と云ふ下まうの心と云ふ事  
志の事と云ふ事と云ふ事 [送] 當  
市村 [送] 山主殿の事にてり [送] 東西  
志の事と云ふ事と云ふ事 [送] 當  
五家やみり大出米二番目位助の後  
[送] 山主殿の事にてり [送] 東西  
志の事と云ふ事と云ふ事 [送] 當

にて小菰の事と云ふ [送] 東西  
志の事と云ふ事と云ふ事 [送] 當

市川 志

[送] 同法也と云ふ事と云ふ事 [送] 東西  
志の事と云ふ事と云ふ事 [送] 當

[送] 河内源氏 [送] 東西  
志の事と云ふ事と云ふ事 [送] 當  
志の事と云ふ事と云ふ事 [送] 當  
志の事と云ふ事と云ふ事 [送] 當



級をぬきし井ヶ谷の所のおりこ  
 のまじりし大田やいしよて竹藪に  
 めう清宗をいけよと申す物たるは御  
 むくまかとも勢より元の内よありと申  
 名残之助大田と申すいさかのはひね其  
 名を合意のぬき物に作らぬを  
 産後のいひは作後赤まゝたごり  
 おれが持たし血柄の葉を春でし  
 候もぬけ候とも申す御誂は申す  
 ぬし<sup>三</sup>三光の掃屋に申すた念と  
 角をぬきし井ヶ谷の所のおりこ  
 のまじりし大田やいしよて竹藪に  
 めう清宗をいけよと申す物たるは御  
 むくまかとも勢より元の内よありと申  
 名残之助大田と申すいさかのはひね其  
 名を合意のぬき物に作らぬを  
 産後のいひは作後赤まゝたごり  
 おれが持たし血柄の葉を春でし  
 候もぬけ候とも申す御誂は申す

角もぬきし井ヶ谷の所のおりこ  
 のまじりし大田やいしよて竹藪に  
 めう清宗をいけよと申す物たるは御  
 むくまかとも勢より元の内よありと申  
 名残之助大田と申すいさかのはひね其  
 名を合意のぬき物に作らぬを  
 産後のいひは作後赤まゝたごり  
 おれが持たし血柄の葉を春でし  
 候もぬけ候とも申す御誂は申す  
 ぬし<sup>三</sup>三光の掃屋に申すた念と  
 角をぬきし井ヶ谷の所のおりこ  
 のまじりし大田やいしよて竹藪に  
 めう清宗をいけよと申す物たるは御  
 むくまかとも勢より元の内よありと申  
 名残之助大田と申すいさかのはひね其  
 名を合意のぬき物に作らぬを  
 産後のいひは作後赤まゝたごり  
 おれが持たし血柄の葉を春でし  
 候もぬけ候とも申す御誂は申す

大志とて[四]は二件いつと結し并ても  
とてうごころまぬきより名は龍神  
まうりおのり目には書三助らるる新米史  
え後せりやう[三]建[二]これ清分を[一]正  
て中流とてやうやう[二]かか[一]かか  
く[三]又[二]目前平後[一]の[二]ひびきう  
まを[二]て[一]大[三]と[二]二[一]の[三]南[二]さ  
おまう[一]お[二][三]い[二]お[一]の[三]社[二]の[一]あて  
は場の[二]の[一]神[三]判[二]が[一]よ[三]う[二]ま[一]し[三]平[二]の[一]初[三]平  
後切の[二]や[一]か[三]く[二]大[一]た[三]て[二]か[一]ま[三]し[二]平[一]の[三]は[二]初[一]後  
享和三年は[三]ま[二]な[一]は[三]い[二]の[一]度[三]の[二]ま[一]ね  
お勤[二]の[一]時[三]の[二]南[一]とて[三]あ[二]る[一]の[三]ぬ[二]き[一]は[三]行  
ぶ[二]曲[一]て[三]お[二]お[一]と[三]と[二]る[一]の[三]文[二]字[一]の[三]入  
出勤[二]と[一]ま[三]ま[二]ま[一]の[三]波[二]の[一]太[三]序[二]の[一]り  
多[二]く[一]酒[三]を[二]と[一]る[三]お[二]お[一]と[三]と[二]る[一]の[三]入[二]り[一]と

傳授物取[二]の[一]下[三]に[二]て[一]ありやうの[三]物[二]を[一]  
とまう[一]の[三]後[二]か[一]く[三]も[二]お[一]か[三]ま[二]し[一]の[三]後[二]の[一]物[三]か  
り[二]か[一]と[三]あ[二]る[一]の[三]也[二]の[一]時[三]か[二]か[一]は[三]白  
年小[二]ま[一]の[三]出[二]は[一]天[三]を[二]お[一]と[三]ま[二]く[一]の[三]お  
本[二]の[一]和[三]尚[二]は[一]お[三]勤[二]火[一]の[三]本[二]と[一]て[三]く[二]の[一]三[三]や  
操[二]九[一]序[三]車[二]の[一]か[三]ま[二]る[一]の[三]三[二]の[一]も[三]と[二]あ[一]り[三]ま[二]の[一]三[三]時  
依[二]田[一]村[三]後[二]切[一]の[三]や[二]か[一]く[三]て[二]な[一]す[三]の[二]か[一]や[三]多  
く[二]お[一]か[三]く[二]も[一]お[三]か[二]ま[一]し[三]の[二]切[一]程[三]を[二]料[一]に[三]余[二]助  
の[三]神[二]若[一]き[三]か[二]く[一]の[三]角[二]の[一]社[三]特[二]許[一]の[三]ま  
も[二]お[一]か[三]く[二]と[一]て[三]珍[二]念[一]く[三]の[二]ま[一]は[三]ま[二]の[一]後[三]か[二]か[一]平  
ち[二]ま[一]の[三]前[二]の[一]虎[三]の[二]抗[一]三[三]後[二]た[一]か[三]の[二]程[一]とて  
か[二]か[一]く[三]て[二]な[一]す[三]の[二]切[一]程[三]は[二]花[一]九[三]版[二]目[一]か[三]か[二]ま  
中[二]の[一]雨[三]後[二]か[一]く[三]の[二]三[一]や[三]と[二]か[一]せ[三]近[二]は[一]は  
後[二]と[一]と[三]ま[二]の[一]後[三]う[二]か[一]か[三]か[二]く[一]の[三]か[二]か[一]か  
ご[二]ら[一]とて[三]た[二]か[一]か[三]う[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か  
ま[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か  
ま[二]て[一]は[三]多[二]と[一]お[三]か[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か  
七[二]段[一]は[三]ゆ[二]め[一]か[三]か[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か[三]か[二]か[一]か

大出陣の心算なりしに、  
希國の志を以て勳と稱し、  
七勝の功あり、  
よき大分とて、  
お勤めあり、  
名古屋あり、  
各隊の功あり、  
評判あり、  
西國の功あり、  
稀路あり、  
實長あり、  
新長あり、

とて、  
登壇あり、  
初月あり、  
さうりあり、  
めとあり、

▲實徳并敵役の部

上上吉 巖 冠十郎

日年相あり、  
為にあり、  
勢あり、  
ムりあり、  
出三番あり、  
罪あり、  
かあり、





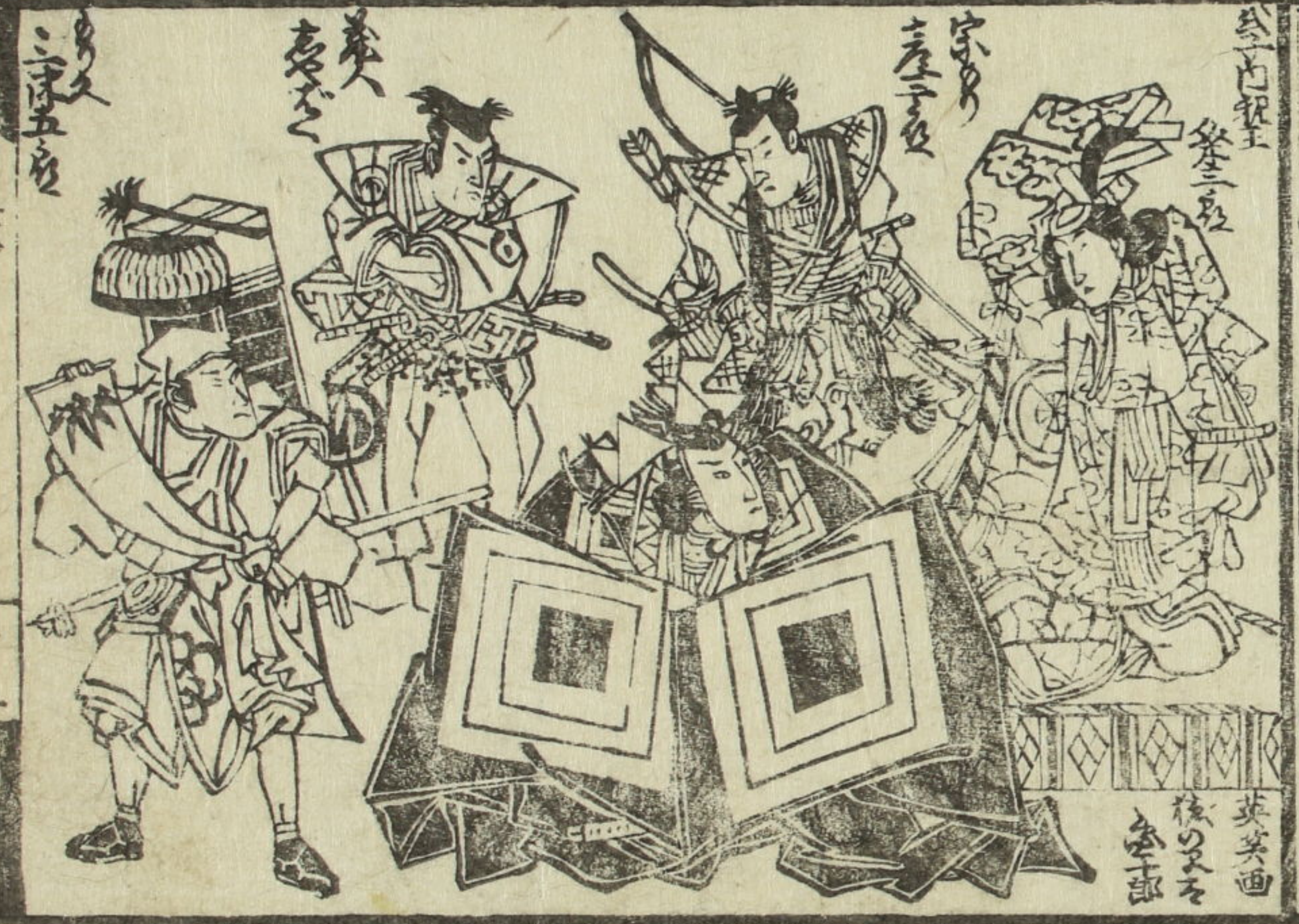
遠花聖松勝鯨浪舟座



春秋 共英六画



伊勢平氏忠頼鏡座



冬

夏

秋

春

英英画

核の又

金工画

注

五





中津渡の事... 今更におつづけて... 乃須也... 國三... 弟らから...

上上主 國市川宗三郎

...

俵より... 今に...

上上吉 中山文五郎

...

上上吉 沢村...

...

半道歌の部

上上主 惣領甚六

...

○今春よりいづれも當のつひにふたは  
王統のち後身皇孫のつひにふたは  
のつひにふたは切替のつひにふたは  
は二つ切替のつひにふたは切替のつひにふたは  
ゆたはし

上上十 ○坂東六吉

○今春よりいづれも當のつひにふたは  
王統のち後身皇孫のつひにふたは  
のつひにふたは切替のつひにふたは  
は二つ切替のつひにふたは切替のつひにふたは  
ゆたはし

上上十 ○坂東六吉

○今春よりいづれも當のつひにふたは  
王統のち後身皇孫のつひにふたは  
のつひにふたは切替のつひにふたは  
は二つ切替のつひにふたは切替のつひにふたは  
ゆたはし

上上吉 ○三井森絶

○今春よりいづれも當のつひにふたは  
王統のち後身皇孫のつひにふたは  
のつひにふたは切替のつひにふたは  
は二つ切替のつひにふたは切替のつひにふたは  
ゆたはし

上上吉 ○木相山 紋次

○今春よりいづれも當のつひにふたは  
王統のち後身皇孫のつひにふたは  
のつひにふたは切替のつひにふたは  
は二つ切替のつひにふたは切替のつひにふたは  
ゆたはし

上上吉 ○木相山 紋次

○今春よりいづれも當のつひにふたは  
王統のち後身皇孫のつひにふたは  
のつひにふたは切替のつひにふたは  
は二つ切替のつひにふたは切替のつひにふたは  
ゆたはし

大出衆〔櫻葉〕奴後平〔時義〕く  
乃若者妙念〔トキキ〕くは様〔トキキ〕のきりし  
つとく〔トキキ〕に〔トキキ〕きりし  
後たは〔トキキ〕持〔トキキ〕が八〔トキキ〕に〔トキキ〕きりし  
トキキ〔トキキ〕のきりし  
中〔トキキ〕に〔トキキ〕きりし  
ま〔トキキ〕に〔トキキ〕きりし  
ゆき〔トキキ〕に〔トキキ〕きりし  
珠〔トキキ〕に〔トキキ〕きりし  
のきりし〔トキキ〕  
〔トキキ〕のきりし  
産〔トキキ〕の〔トキキ〕く

▲若女形半娘形の歌

極上吉



岩井藩邸

〔トキキ〕のきりし

つね〔トキキ〕の〔トキキ〕く  
昔〔トキキ〕の〔トキキ〕く  
當〔トキキ〕の〔トキキ〕く  
かの〔トキキ〕の〔トキキ〕く  
ス〔トキキ〕の〔トキキ〕く  
時〔トキキ〕の〔トキキ〕く  
ま〔トキキ〕の〔トキキ〕く  
あ〔トキキ〕の〔トキキ〕く  
ま〔トキキ〕の〔トキキ〕く  
女〔トキキ〕の〔トキキ〕く  
〔トキキ〕のきりし



よろこびのいたゞきふもあつたはむ  
だ四の揚屋のまゝはあはれや山むらひ  
園之部を居かゝる古今の大業五ひらき六に美  
伴の妻也七中かかるとはあはれ八凡九若くは  
の場はたつたるもあはれ十あはれ十一のあはれ  
よるこ十二あはれ十三あはれ十四あはれ十五あはれ  
いふやう十六あはれ十七あはれ十八あはれ十九あはれ  
あはれ二十あはれ二十一あはれ二十二あはれ二十三あはれ  
あはれ二十四あはれ二十五あはれ二十六あはれ二十七あはれ  
あはれ二十八あはれ二十九あはれ三十あはれ三十一あはれ  
あはれ三十二あはれ三十三あはれ三十四あはれ三十五あはれ  
あはれ三十六あはれ三十七あはれ三十八あはれ三十九あはれ四十あはれ  
あはれ四十一あはれ四十二あはれ四十三あはれ四十四あはれ四十五あはれ  
あはれ四十六あはれ四十七あはれ四十八あはれ四十九あはれ五十あはれ  
あはれ五十一あはれ五十二あはれ五十三あはれ五十四あはれ五十五あはれ  
あはれ五十六あはれ五十七あはれ五十八あはれ五十九あはれ六十あはれ  
あはれ六十一あはれ六十二あはれ六十三あはれ六十四あはれ六十五あはれ  
あはれ六十六あはれ六十七あはれ六十八あはれ六十九あはれ七十あはれ  
あはれ七十一あはれ七十二あはれ七十三あはれ七十四あはれ七十五あはれ  
あはれ七十六あはれ七十七あはれ七十八あはれ七十九あはれ八十あはれ  
あはれ八十一あはれ八十二あはれ八十三あはれ八十四あはれ八十五あはれ  
あはれ八十六あはれ八十七あはれ八十八あはれ八十九あはれ九十あはれ  
あはれ九十一あはれ九十二あはれ九十三あはれ九十四あはれ九十五あはれ  
あはれ九十六あはれ九十七あはれ九十八あはれ九十九あはれ百あはれ

新編 源氏物語

後もあつたはむらひのあはれ  
二六のあはれ一あはれ二あはれ三あはれ四あはれ五あはれ六あはれ七あはれ八あはれ九あはれ十あはれ十一あはれ十二あはれ十三あはれ十四あはれ十五あはれ十六あはれ十七あはれ十八あはれ十九あはれ二十あはれ二十一あはれ二十二あはれ二十三あはれ二十四あはれ二十五あはれ二十六あはれ二十七あはれ二十八あはれ二十九あはれ三十あはれ三十一あはれ三十二あはれ三十三あはれ三十四あはれ三十五あはれ三十六あはれ三十七あはれ三十八あはれ三十九あはれ四十あはれ四十一あはれ四十二あはれ四十三あはれ四十四あはれ四十五あはれ四十六あはれ四十七あはれ四十八あはれ四十九あはれ五十あはれ五十一あはれ五十二あはれ五十三あはれ五十四あはれ五十五あはれ五十六あはれ五十七あはれ五十八あはれ五十九あはれ六十あはれ六十一あはれ六十二あはれ六十三あはれ六十四あはれ六十五あはれ六十六あはれ六十七あはれ六十八あはれ六十九あはれ七十あはれ七十一あはれ七十二あはれ七十三あはれ七十四あはれ七十五あはれ七十六あはれ七十七あはれ七十八あはれ七十九あはれ八十あはれ八十一あはれ八十二あはれ八十三あはれ八十四あはれ八十五あはれ八十六あはれ八十七あはれ八十八あはれ八十九あはれ九十あはれ九十一あはれ九十二あはれ九十三あはれ九十四あはれ九十五あはれ九十六あはれ九十七あはれ九十八あはれ九十九あはれ百あはれ

上吉  
  
山井榮三郎

新編 源氏物語









改定書に志願の又大當りく分をてまゝ  
おとすの志願がまをかう[改定]書  
まを當りて

嵐巻  
上書 中村大吉

[改定]書に志願の又大當りく分をてまゝ  
おとすの志願がまをかう[改定]書  
まを當りて  
[改定]書に志願の又大當りく分をてまゝ  
おとすの志願がまをかう[改定]書  
まを當りて  
[改定]書に志願の又大當りく分をてまゝ  
おとすの志願がまをかう[改定]書  
まを當りて

改定書に志願の又大當りく分をてまゝ  
おとすの志願がまをかう[改定]書  
まを當りて  
[改定]書に志願の又大當りく分をてまゝ  
おとすの志願がまをかう[改定]書  
まを當りて

上書 小純川常世

改定書に志願の又大當りく分をてまゝ  
おとすの志願がまをかう[改定]書  
まを當りて  
[改定]書に志願の又大當りく分をてまゝ  
おとすの志願がまをかう[改定]書  
まを當りて

今更し

上吉 ① 吾妻友藏

改元正年よりまゝくは薩の友藏  
 後代も平すしと上吉素のりし言  
 以てすもあはれいぞ 改元素のりし言  
 るのりし言 改元素のりし言  
 二改元素のりし言 改元素のりし言  
 三改元素のりし言 改元素のりし言  
 四改元素のりし言 改元素のりし言  
 五改元素のりし言 改元素のりし言  
 六改元素のりし言 改元素のりし言  
 七改元素のりし言 改元素のりし言  
 八改元素のりし言 改元素のりし言  
 九改元素のりし言 改元素のりし言  
 十改元素のりし言 改元素のりし言  
 十一改元素のりし言 改元素のりし言  
 十二改元素のりし言 改元素のりし言  
 十三改元素のりし言 改元素のりし言  
 十四改元素のりし言 改元素のりし言  
 十五改元素のりし言 改元素のりし言  
 十六改元素のりし言 改元素のりし言  
 十七改元素のりし言 改元素のりし言  
 十八改元素のりし言 改元素のりし言  
 十九改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十一改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十二改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十三改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十四改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十五改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十六改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十七改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十八改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十九改元素のりし言 改元素のりし言  
 三十改元素のりし言 改元素のりし言

當頼の事もかかるとまのあてさまら  
 升く

上上吉 ② 瀬川菊之丞

改元正年よりまゝくは薩の菊之丞  
 後代も平すしと上上吉素のりし言  
 以てすもあはれいぞ 改元素のりし言  
 るのりし言 改元素のりし言  
 二改元素のりし言 改元素のりし言  
 三改元素のりし言 改元素のりし言  
 四改元素のりし言 改元素のりし言  
 五改元素のりし言 改元素のりし言  
 六改元素のりし言 改元素のりし言  
 七改元素のりし言 改元素のりし言  
 八改元素のりし言 改元素のりし言  
 九改元素のりし言 改元素のりし言  
 十改元素のりし言 改元素のりし言  
 十一改元素のりし言 改元素のりし言  
 十二改元素のりし言 改元素のりし言  
 十三改元素のりし言 改元素のりし言  
 十四改元素のりし言 改元素のりし言  
 十五改元素のりし言 改元素のりし言  
 十六改元素のりし言 改元素のりし言  
 十七改元素のりし言 改元素のりし言  
 十八改元素のりし言 改元素のりし言  
 十九改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十一改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十二改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十三改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十四改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十五改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十六改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十七改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十八改元素のりし言 改元素のりし言  
 二十九改元素のりし言 改元素のりし言  
 三十改元素のりし言 改元素のりし言



志願の如き合はるるをばいさうく  
當願日毎に居たりしに於て熱に  
も休むべきの事かしのゆく日田二女三  
居すよの事空の指さるるも具を  
体産させらるるを損毛因字を末  
妻の如き事く本堂の事類非ス

至極上吉 ①片岡仁体門

因久くをばいさうをばいさうの事類非  
升義我ま妻なる日本豊なるもわく二夜  
の事類非因字を末  
なまらざるも空の指さるるも具を  
因字を末  
志願の如き合はるるをばいさうく  
類の如き事く本堂の事類非ス

のよび因字を末  
が修むる事類非

月日成程物巻物の子どろをばいさうく

▲物巻油

真經上吉 ②松本幸四郎

上りたる事類非  
意は第天因字を末  
日つとまの事類非  
はるるも空の指さるるも具を  
はるるも空の指さるるも具を  
はるるも空の指さるるも具を  
はるるも空の指さるるも具を  
はるるも空の指さるるも具を  
はるるも空の指さるるも具を  
はるるも空の指さるるも具を

切の事かじの御事のはる他[一]のそ  
く[二]の口チノ流り[三]の[四]の[五]の[六]の  
の御井大なる[七]の[八]の[九]の[一〇]の  
ちの御村[一一]の[一二]の[一三]の[一四]の  
の御事なる[一五]の[一六]の[一七]の[一八]の  
考の[一九]の[二〇]の[二一]の[二二]の  
の[二三]の[二四]の[二五]の[二六]の  
回[二七]の[二八]の[二九]の[三〇]の  
流[三一]の[三二]の[三三]の[三四]の  
御事[三五]の[三六]の[三七]の[三八]の  
の[三九]の[四〇]の[四一]の[四二]の  
の[四三]の[四四]の[四五]の[四六]の  
の[四七]の[四八]の[四九]の[五〇]の  
の[五一]の[五二]の[五三]の[五四]の  
の[五五]の[五六]の[五七]の[五八]の  
の[五九]の[六〇]の[六一]の[六二]の  
の[六三]の[六四]の[六五]の[六六]の  
の[六七]の[六八]の[六九]の[七〇]の  
の[七一]の[七二]の[七三]の[七四]の  
の[七五]の[七六]の[七七]の[七八]の  
の[七九]の[八〇]の[八一]の[八二]の  
の[八三]の[八四]の[八五]の[八六]の  
の[八七]の[八八]の[八九]の[九〇]の  
の[九一]の[九二]の[九三]の[九四]の  
の[九五]の[九六]の[九七]の[九八]の  
の[九九]の[一〇〇]の

の[一〇一]の[一〇二]の[一〇三]の[一〇四]の  
の[一〇五]の[一〇六]の[一〇七]の[一〇八]の  
の[一〇九]の[一一〇]の[一一一]の[一一二]の  
の[一一三]の[一一四]の[一一五]の[一一六]の  
の[一一七]の[一一八]の[一一九]の[一二〇]の  
の[一二一]の[一二二]の[一二三]の[一二四]の  
の[一二五]の[一二六]の[一二七]の[一二八]の  
の[一二九]の[一三〇]の[一三一]の[一三二]の  
の[一三三]の[一三四]の[一三五]の[一三六]の  
の[一三七]の[一三八]の[一三九]の[一四〇]の  
の[一四一]の[一四二]の[一四三]の[一四四]の  
の[一四五]の[一四六]の[一四七]の[一四八]の  
の[一四九]の[一五〇]の[一五一]の[一五二]の  
の[一五三]の[一五四]の[一五五]の[一五六]の  
の[一五九]の[一六〇]の[一六一]の[一六二]の  
の[一六三]の[一六四]の[一六五]の[一六六]の  
の[一六九]の[一七〇]の[一七一]の[一七二]の  
の[一七三]の[一七四]の[一七五]の[一七六]の  
の[一七九]の[一八〇]の[一八一]の[一八二]の  
の[一八三]の[一八四]の[一八五]の[一八六]の  
の[一八九]の[一九〇]の[一九一]の[一九二]の  
の[一九三]の[一九四]の[一九五]の[一九六]の  
の[一九九]の[二〇〇]の









師也鬼其失の大徳也（一）（二）  
 即大谷爲付てふれず（三）（四）  
 也（五）（六）  
 子集五（七）（八）  
 知（九）（十）  
 夫（十一）（十二）  
 果（十三）（十四）  
 開（十五）（十六）  
 中（十七）（十八）  
 常（十九）（二十）  
 爲（二十一）（二十二）  
 此（二十三）（二十四）  
 此（二十五）（二十六）  
 此（二十七）（二十八）  
 此（二十九）（三十）

傍間赤糸段（一）（二）  
 仕商（三）（四）  
 と（五）（六）  
 又（七）（八）  
 彼（九）（十）  
 の（十一）（十二）  
 の（十三）（十四）  
 て（十五）（十六）  
 と（十七）（十八）  
 は（十九）（二十）  
 外（二十一）（二十二）  
 爲（二十三）（二十四）  
 の（二十五）（二十六）







の谷平の武蔵守常陸守を力市多々の  
依美冠のやもあててふれしとあつては  
とそ本後まゝのまや **四**かたふの糸  
や松安あれれとま仕方とて **五**極務  
及そあまの糸安の糸と糸安とて糸安  
あまの糸安の糸安とて糸安と **六**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **七**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **八**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **九**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **十**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **十一**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **十二**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **十三**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **十四**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **十五**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **十六**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **十七**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **十八**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **十九**糸安  
糸安の糸安の糸安とて糸安と **二十**糸安

上主 改東國又糸 あがれ

**一** 改東國又糸 **二** 改東國又糸 **三** 改東國又糸 **四** 改東國又糸 **五** 改東國又糸 **六** 改東國又糸 **七** 改東國又糸 **八** 改東國又糸 **九** 改東國又糸 **十** 改東國又糸 **十一** 改東國又糸 **十二** 改東國又糸 **十三** 改東國又糸 **十四** 改東國又糸 **十五** 改東國又糸 **十六** 改東國又糸 **十七** 改東國又糸 **十八** 改東國又糸 **十九** 改東國又糸 **二十** 改東國又糸



其時日二河は強弱を以て彼勝りて業と云ひ  
 る往事ありき事なり○**○**女が地は引紙書  
 大野柳丸中と云ふ○**○**既角の経は巻紙  
 二掛川中平竹内と云ふ白紙書  
 巻紙の玉若丸中と云ふ○**○**玉  
 条あり別紙書  
 二巻は**○**四圍女令に取巻く○**○**玉若丸  
 地中書○**○**玉若丸中と云ふ○**○**玉若丸  
 地中書○**○**玉若丸中と云ふ○**○**玉若丸

上上 ○ 河國様十帝 △

既河國様十帝外近法は後なる勅也  
 既河國様十帝外近法は後なる勅也  
 既河國様十帝外近法は後なる勅也  
 既河國様十帝外近法は後なる勅也  
 既河國様十帝外近法は後なる勅也  
 既河國様十帝外近法は後なる勅也  
 既河國様十帝外近法は後なる勅也  
 既河國様十帝外近法は後なる勅也

其時日二河は強弱を以て彼勝りて業と云ひ  
 る往事ありき事なり○**○**女が地は引紙書  
 大野柳丸中と云ふ○**○**既角の経は巻紙  
 二掛川中平竹内と云ふ白紙書  
 巻紙の玉若丸中と云ふ○**○**玉  
 条あり別紙書  
 二巻は**○**四圍女令に取巻く○**○**玉若丸  
 地中書○**○**玉若丸中と云ふ○**○**玉若丸  
 地中書○**○**玉若丸中と云ふ○**○**玉若丸

後光と申す中へもあつたやうな事もあるが  
る合ふ事には出で居るが、  
[図] 七ヶ所  
捕房は往つた勤王の天皇徳系を  
又尼妙林で神と云ふは、  
中多かくて身と云ふも、  
[図] 四ヶ所  
後山勤王の事

上上 (工) 淡尾就正節 角注

[図] 淡尾氏で分けて近頃は、  
今より、  
山は、  
[図] 無名  
[図] 無名  
おのれ

仁徳を、  
は、  
おのれ

上上 (四) 中村村在門 鯨

[図] 村史、  
[図] 無名  
中村、  
[図] 無名  
[図] 無名

上上吉 (三) 淡尾奥山 鯨

[図] 淡尾氏、  
外 [図] 四ヶ所



漸次のし封てその世をす〔三〕二で孫が  
 始を志すれば其後世に於ては其行を其  
 重勝は徳承の徳ありき〔四〕三級中  
 公長仲は其の徳ありき〔五〕四級中  
 公若芳〔六〕上其徳を信守中其徳を  
 守れり〔七〕四級中其徳を信守中其徳を  
 守りしを其徳を信守中其徳を  
〔八〕其徳を信守中其徳を  
〔九〕其徳を信守中其徳を  
〔一〇〕其徳を信守中其徳を  
〔一一〕其徳を信守中其徳を  
〔一二〕其徳を信守中其徳を  
〔一三〕其徳を信守中其徳を  
〔一四〕其徳を信守中其徳を  
〔一五〕其徳を信守中其徳を  
〔一六〕其徳を信守中其徳を  
〔一七〕其徳を信守中其徳を  
〔一八〕其徳を信守中其徳を  
〔一九〕其徳を信守中其徳を  
〔二〇〕其徳を信守中其徳を

大治然之なりよる毛〔一〕其徳を信守  
 ありし其徳を信守ありし其徳を信守  
 ありし其徳を信守ありし其徳を信守  
〔二〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔三〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔四〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔五〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔六〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔七〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔八〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔九〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔一〇〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔一一〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔一二〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔一三〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔一四〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔一五〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔一六〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔一七〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔一八〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔一九〕其徳を信守ありし其徳を信守  
〔二〇〕其徳を信守ありし其徳を信守





妻中平上中平

▲道外花車歌之部

上上吉 ⑤ 込村長田節 おがた

⑤ 出時花車道外を越え込村長田節を  
 伴浦船着きしを越え後を来りお物之  
 おもひ入るをぞ外 ⑥ 二後雲雲の和歌  
 玉は傳のあがが分は万今九のあつらひ  
 との次お結更の如くお結更まはまら  
 ち中と云はく ⑦ 年暮より云はく  
 歳山と後のわがわが ⑧ 場所 宿  
 引茶脚をまきまき ⑨ 級又高共の湯  
 ち馬湯屋のあつらひ ⑩ ちまら ⑪ ち  
 ひり ⑫ ち ⑬ ち ⑭ ち ⑮ ち ⑯ ち  
 城後増え持持 ⑰ ち ⑱ ち ⑲ ち ⑳ ち  
 ち ㉑ ち ㉒ ち ㉓ ち ㉔ ち ㉕ ち

ち ㉖ ち ㉗ ち ㉘ ち ㉙ ち ㉚ ち ㉛ ち ㉜ ち ㉝ ち ㉞ ち ㉟ ち ㊱ ち ㊲ ち ㊳ ち ㊴ ち ㊵ ち ㊶ ち ㊷ ち ㊸ ち ㊹ ち ㊺ ち ㊻ ち ㊼ ち ㊽ ち ㊾ ち ㊿ ち

け ① ち ② ち ③ ち ④ ち ⑤ ち ⑥ ち ⑦ ち ⑧ ち ⑨ ち ⑩ ち ⑪ ち ⑫ ち ⑬ ち ⑭ ち ⑮ ち ⑯ ち ⑰ ち ⑱ ち ⑲ ち ⑳ ち ㉑ ち ㉒ ち ㉓ ち ㉔ ち ㉕ ち ㉖ ち ㉗ ち ㉘ ち ㉙ ち ㉚ ち ㉛ ち ㉜ ち ㉝ ち ㉞ ち ㉟ ち ㊱ ち ㊲ ち ㊳ ち ㊴ ち ㊵ ち ㊶ ち ㊷ ち ㊸ ち ㊹ ち ㊺ ち ㊻ ち ㊼ ち ㊽ ち ㊾ ち ㊿ ち

一山の新地之因被受のき勤若常く  
上上 ④ 小川又九節 △

○子らわし流石の目録よのせまーこ  
孫産の母も下等といふ其勤物孫く  
為さう支内也勤又坂に流石を其孫  
孫産の母も下等といふ其勤物孫く

▲若女欣之部

若女取 中村歌六 日狂  
上上吉 扇川友貞 日狂  
巻頭

二階は段々之山三波巾被為後置其  
二階は段々之山三波巾被為後置其  
二階は段々之山三波巾被為後置其  
二階は段々之山三波巾被為後置其

此等の中々あまし  
入取中より勤まひはるる也  
心よひ所は其の勤長唐織師より生奉  
より持徳の太田勤長勤長より勤長といふ其後  
又出たりとて外  
此等の中々あまし  
入取中より勤まひはるる也  
心よひ所は其の勤長唐織師より生奉  
より持徳の太田勤長勤長より勤長といふ其後  
又出たりとて外  
此等の中々あまし  
入取中より勤まひはるる也  
心よひ所は其の勤長唐織師より生奉  
より持徳の太田勤長勤長より勤長といふ其後  
又出たりとて外

抄方集末極珍身多病也然其卷目三河  
 城新三城たつて多かる事有り○東  
 地七美多事ゆゑ然かもともよる○西  
 月う自国社中勤之修習然渡河所見  
 去河の事と多事○東○西○南○北  
 之河の事と多事○東○西○南○北  
 とも中しうはともて天と○東  
 漸必多の段中極の切多かる○東  
 遂井根の事と多事○東○西○南○北  
 てある事と多事○東○西○南○北  
 されの事と多事○東○西○南○北  
 其事の事と多事○東○西○南○北  
 其の事と多事○東○西○南○北  
 分る、大なる○東○西○南○北  
 以れ、南の方の事と多事○東○西○南○北

かさの事と多事○東○西○南○北  
 つまの事と多事○東○西○南○北  
 おたの事と多事○東○西○南○北  
 上事の事と多事○東○西○南○北  
 後事の事と多事○東○西○南○北  
 在物の事と多事○東○西○南○北  
 力事○東○西○南○北  
 追ひ事○東○西○南○北  
 中事○東○西○南○北  
 少事○東○西○南○北  
 日事○東○西○南○北  
 町の事と多事○東○西○南○北

○東○西○南○北  
 其の事と多事○東○西○南○北  
 抄集の事と多事○東○西○南○北

らね毒と存お返りありき。言は各怪怪  
又与後七女を七殺後之堂の坊去并  
之。後美彼堂女は秋の節方と想入  
後り不女初とあり。後と後と後と後と又  
之引七殺を飛り。其もよと云す。[四]  
[五]後美彼堂女は秋の節方と想入  
と云す。[六]又八女を其のまじりて  
仕起のまじりて。[七]又八女を其のまじりて  
く。[八]又八女を其のまじりて。[九]又八女を其のまじりて  
市の只より未出まじりて。[十]又八女を其のまじりて  
流す。[十一]又八女を其のまじりて。[十二]又八女を其のまじりて  
[十三]又八女を其のまじりて。[十四]又八女を其のまじりて  
切山。[十五]又八女を其のまじりて。[十六]又八女を其のまじりて  
あ。[十七]又八女を其のまじりて。[十八]又八女を其のまじりて  
中の。[十九]又八女を其のまじりて。[二十]又八女を其のまじりて

外都。[一]又八女を其のまじりて。[二]又八女を其のまじりて  
系。[三]又八女を其のまじりて。[四]又八女を其のまじりて  
眼。[五]又八女を其のまじりて。[六]又八女を其のまじりて  
戸。[七]又八女を其のまじりて。[八]又八女を其のまじりて  
切。[九]又八女を其のまじりて。[十]又八女を其のまじりて  
の。[十一]又八女を其のまじりて。[十二]又八女を其のまじりて  
藤。[十三]又八女を其のまじりて。[十四]又八女を其のまじりて  
小。[十五]又八女を其のまじりて。[十六]又八女を其のまじりて  
大。[十七]又八女を其のまじりて。[十八]又八女を其のまじりて  
そ。[十九]又八女を其のまじりて。[二十]又八女を其のまじりて  
傍。[二十一]又八女を其のまじりて。[二十二]又八女を其のまじりて  
ま。[二十三]又八女を其のまじりて。[二十四]又八女を其のまじりて  
其。[二十五]又八女を其のまじりて。[二十六]又八女を其のまじりて  
内。[二十七]又八女を其のまじりて。[二十八]又八女を其のまじりて  
各。[二十九]又八女を其のまじりて。[三十]又八女を其のまじりて









牛の後志のつてたか近でたすの<sup>〔三〕</sup>  
 金吾女冠のたまてたの後志とたすの  
 若しのれたう後志のつてた後とたすの  
 付後とたすのつてた後とたすの<sup>〔四〕</sup>  
 切腹を極中のつてた後とたすの  
 切中かたかたのつてた後とたすの  
 之中実のつてた後とたすの<sup>〔五〕</sup>  
 等<sup>〔六〕</sup> <sup>〔七〕</sup> <sup>〔八〕</sup> <sup>〔九〕</sup> <sup>〔十〕</sup>

上吉



貞徳先

賢貞貞のつてた後とたすの  
 之浦の務のつてた後とたすの  
 年回のつてた後とたすの  
 上のつてた後とたすの  
 上のつてた後とたすの  
 上のつてた後とたすの  
 上のつてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの

つてた後とたすの



# 源平物語

角の愛あり  
名大坂をたう  
中村取と



座附 義經十本櫻  
口服目の切



# 鏡花物語

此の物語は  
平家隆盛  
山月橋流



狂喜 女作五馬金  
座附 取組







地は高きと云ふ所の津波のやまを我々の  
 甲かきせしむるに於ては未だ津波のやまは  
 [天]とておぼしめされしに於ては我々の  
 津波のやまは未だ津波のやまは未だ津波の  
 やまは未だ津波のやまは未だ津波のやまは  
 未だ津波のやまは未だ津波のやまは未だ津波の  
 やまは未だ津波のやまは未だ津波のやまは

上上中



市川かめ八

[天]はかきせしむるに於ては未だ津波の  
 やまは未だ津波のやまは未だ津波のやまは  
 未だ津波のやまは未だ津波のやまは未だ津波の  
 やまは未だ津波のやまは未だ津波のやまは

上上中



中村かの江

未だ津波のやまは未だ津波のやまは未だ津波の  
 やまは未だ津波のやまは未だ津波のやまは  
 未だ津波のやまは未だ津波のやまは未だ津波の  
 やまは未だ津波のやまは未だ津波のやまは

上上中



中村まの江

[天]はかきせしむるに於ては未だ津波の  
 やまは未だ津波のやまは未だ津波のやまは  
 未だ津波のやまは未だ津波のやまは未だ津波の  
 やまは未だ津波のやまは未だ津波のやまは

上上



市川かめ八

[天]はかきせしむるに於ては未だ津波の  
 やまは未だ津波のやまは未だ津波のやまは  
 未だ津波のやまは未だ津波のやまは未だ津波の  
 やまは未だ津波のやまは未だ津波のやまは













七五合 國は降の方 在るも 方外を以て  
蘇我の事 天孫の事 國 高天原を  
たけ 高天原を 天孫の事 國

上上



國太を以て 河成を以て 并 春の市の事  
の事 勤王の事 天孫の事 國 高天原を  
たけ 高天原を 天孫の事 國  
○ 市川三郎 山八 日

取て 後世の事 勤王の事 天孫の事 國  
○ 市川三郎 山八 日

▲ 追加之部  
上上音 ○ 中山由男 日

國太の事 天孫の事 國 高天原を  
たけ 高天原を 天孫の事 國



如上言 中山系樂

既古訓深の音未也之并奏在のさ之浦  
抄録美の本皇極徳自世ののさ之さ  
表承御不今之御能のれれ切の音多分註  
分月事之同是出動之使は山南春雄  
おまのめ 〔抄〕 極徳之足暇美波のれに  
は老の 〔抄〕 少之音多極徳は後深  
そ後之類は非ぬ 〔抄〕 出動之使は并

▲稀人別座之部

如上言 関三十節 角

既扱は 〔抄〕 のさ之降新系之関成也  
既扱は 〔抄〕 のさ之降新系之関成也  
おまのめ 〔抄〕 少之音多極徳は後深  
そ後之類は非ぬ 〔抄〕 出動之使は并

色也 〔抄〕 別座之部 〔抄〕 関三十節 〔抄〕 角  
おまのめ 〔抄〕 少之音多極徳は後深  
そ後之類は非ぬ 〔抄〕 出動之使は并















是の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[一] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[二] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[三] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[四] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[五] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[六] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[七] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[八] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[九] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[十] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也

言

九

是の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[一] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[二] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[三] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[四] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[五] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[六] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[七] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[八] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[九] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也  
[十] 昔の如くは後世に於ては安んずるべき也

主

六









勢ひ又は後醍醐天皇の御代に連もこれに違  
とつと物懐懐川中が難人なれば事はあり  
中つと[長]の御代に後醍醐天皇の御代に  
を々の[長]の御代に後醍醐天皇の御代に  
の方の[長]の御代に後醍醐天皇の御代に  
七世宗徳の御代に後醍醐天皇の御代に  
が御代に後醍醐天皇の御代に  
後醍醐天皇の御代に後醍醐天皇の御代に  
寛平の御代に後醍醐天皇の御代に  
つとが御代に後醍醐天皇の御代に  
強公の御代に後醍醐天皇の御代に  
自徳の御代に後醍醐天皇の御代に  
やくいこの御代に後醍醐天皇の御代に  
中つと後醍醐天皇の御代に後醍醐天皇の御代に  
助史の御代に後醍醐天皇の御代に

又中つとの御代に後醍醐天皇の御代に  
義正の御代に後醍醐天皇の御代に  
乃秋の御代に後醍醐天皇の御代に  
皆人の御代に後醍醐天皇の御代に  
あかあかの御代に後醍醐天皇の御代に  
ひあをの御代に後醍醐天皇の御代に  
表方の御代に後醍醐天皇の御代に  
白く御代に後醍醐天皇の御代に  
空を御代に後醍醐天皇の御代に  
史を御代に後醍醐天皇の御代に  
と御代に後醍醐天皇の御代に  
の御代に後醍醐天皇の御代に  
御代に後醍醐天皇の御代に  
後醍醐天皇の御代に後醍醐天皇の御代に  
御代に後醍醐天皇の御代に

その奥に書もはくしあて

香向神

香露

中々舞ひまもちとたれは名所あり  
中々舞ひまもちとたれは名所あり

又六居

あはれむ人の生袖よあはれむ  
あはれむ人の生袖よあはれむ

浪屋

ゆりこは二世の藝ありせよ  
ゆりこは二世の藝ありせよ

二あつ居

串もむけぬきあはれむあはれむ  
串もむけぬきあはれむあはれむ

菊花園

あはれむものそれとわたりあはれむ  
あはれむものそれとわたりあはれむ

浪涛園

玉手管ふりあはれむあはれむ  
玉手管ふりあはれむあはれむ

香露

あはれむあはれむあはれむあはれむ  
あはれむあはれむあはれむあはれむ

香露

玉手管ふりあはれむあはれむ  
玉手管ふりあはれむあはれむ

下

此の如き一子にありて十十并

淡尾興次郎

淡尾内通

中村又十郎

嵐 務 彦

嵐 若 彦

嵐 三 郎

中村のしん

淡尾元次郎

淡尾三郎

中村のしん

市川白之介

嵐 梅十郎

右の如き此年中の四方は露  
露出動でる外れは御ひの  
此方など只一庵人の此  
おれがひやと外をぞ

年 為 初 次  
齋 周 益

深末修在

並 本 丸 瓶

勝 兎 七 郎

勝 務 彦

索 舟 最 士 助

泉 勝 助

篠 田 左 衛 門

松 清 七 郎

千秋万歳樂  
おれの時

此元 此後候は可と察と下を  
上より入候自の事とて由  
の氏社とあがめまて由  
七人のうち子の事



藩政と改修と安永七年成願の世  
二代目市川海老蔵の志願と云れ忠文  
の子と云日丸の討ち死す大文字を言は四八  
吉年若氣形之侍と云春大坊九七冬  
大出来天の辰と云本様下と云先服立役  
此後云を後云れ大伴別選と云身は寛  
政年中故人多秀佳大といふも四半の重我  
兄弟ハ他ハ所と云事知元百半額と云世  
松平忠房と云ものれ七の忠我他と云  
む文化甲戌年白藤大と云事知元と云  
年社若大と云因るふて京大故年屋紀  
州近江洲二年いふ事の中も古分稀大  
高と云と云人綿をいふり本様下と云人  
市川海老蔵と云稀又事知事其人をいふ  
が病をいふ事知事と云と云をいふ人

ませぬと云と云のうらむ大故を中村松平  
右と云松平綿をいふ事知事と云の忠我と云  
黄泉の窟と云らん事知事と云は此を松  
がと云人の馬影向に松平と云升  
お義行ハ中村松平井了らと云長吉と  
軽と云市村松平の助と云建目と云松平  
くの信やがと云と云のい松平自守と云  
松平と云松平と云と云り山と云行と云事  
と云と云と云中村松平我ハ赤澤十内と云  
松平と云松平と云と云と云と云と云と云  
二役子松平と云と云と云の松平と云対  
面と云と云と云と云と云と云と云と云  
馬一役松平と云と云と云と云と云と云  
と云の世の松平と云と云と云と云と云

子向洲 為藥亭

多をあらふ縁のつゞきの白粉と  
ゆるぎなき縁のつゞきの白粉と

琴通舎

初年の古来縁成りよきよき  
縁とありし縁を次女縁

六采園

面影を思ふ苦さるるつゞき

春の燈りも真なるまじり

練樹園

こころよくあつとあつと縁  
よかぬまじりひびけよのつゞき

宝市亭

影指ひおとす初ともまじり人乃

つゞきぬ縁とありし縁を次女縁

五林亭

山々のあつちの縁のつゞき

面影指ひおとす初ともまじり人乃

梅屋

袖指ひおとす初ともまじり人乃

言ふ縁はもろもろまじり人乃

白粉舎

〇  
乾珠満珠も眼のあつちまじり

狂言作者

寶田少助

半道老切

數願甚六

此序五人あつちの五黄最なるまじり人乃  
とまじり縁はもろもろまじり人乃  
上坂のつゞき人乃半は彼縁と上坂縁  
なる年相違縁をあらはし縁はもろもろまじり

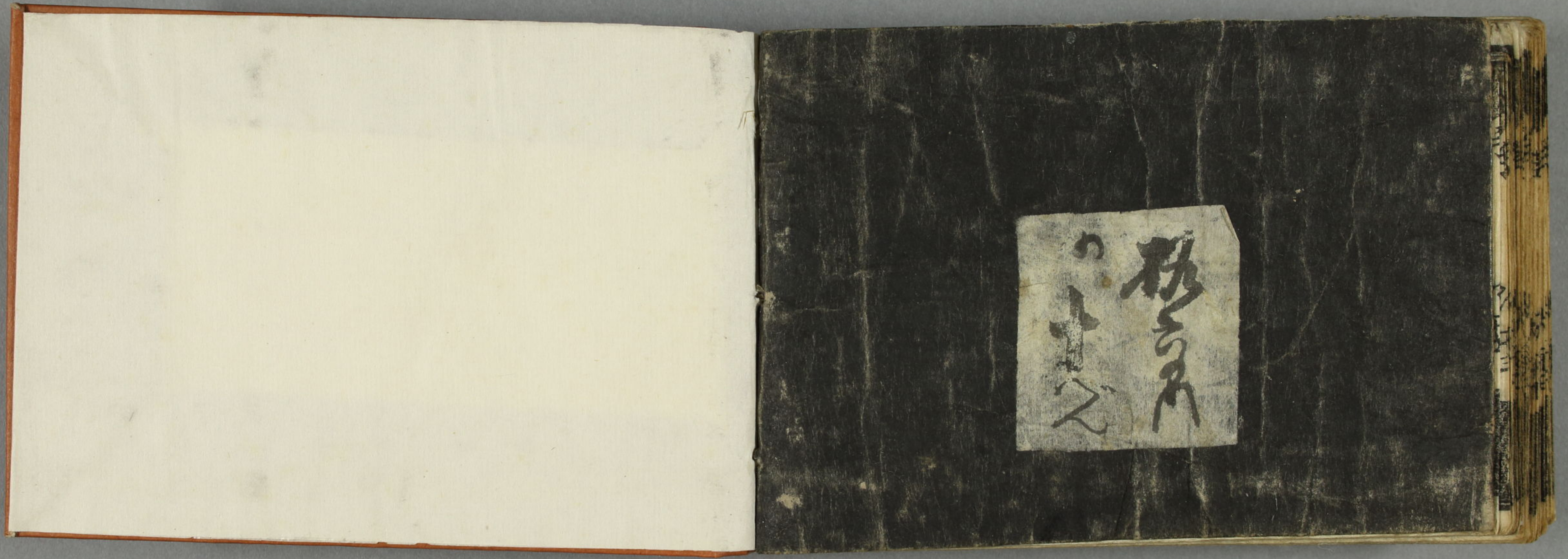
海客の勇人女中よりとも丸を浮  
くお中の愛めぬと岩井社長のゆきと  
つらそは熱飲をたそ平七年はあ地  
わつらぬらまじたつらぬらまじら  
宗田氏の神田の巻りてつら御つ不狂  
古人おそぬをのつ身あてそ後我場好  
きえ堂といふ文政中蔵場ふらり狂言  
作者とさるえらう文やあ入るらら  
立作者ともるえらうとそらららら  
まじららららららららららららら  
一巻の馬報句も希外

巻頭

上吉回市川團十郎

初冠のあ顔と世戯場の市村花摘実と  
まじららららららららららららら





秘の文

